

1/20完全スケール★精密なメカニズムを楽しむスーパーキット★川崎/ヒューズH500 組立て説明図

# HUGHES

KAWASAKI HUGHES H500  
HELICOPTER

1/20th IDENTICAL SCALE SUPERKIT ★ CONSTRUCTION BOOK



S008002

ヒューズH 500は、1960年にアメリカ陸軍が行った軽観測ヘリコプタ(LOH)の競争設計で、先駆メーカーのベル社やヒラー社を押え、堂々と栄冠をかちとったOH-6の民間型です。

LOHは観測、連絡、指揮、雑用を目的とする万能小型ヘリコプタで、競争設計では操縦士のほかに兵員4名または180kgのペイロードを積み、巡航速度205km/h以上、滞空3時間以上のほか寸法重量、耐用年数、整備性などに関してもきわめてきびしい仕様をつけられました。

ヒューズではこの要求を満足させるため、従来の考えを全く改めて白紙の状態で設計しました。その結果、卵形にこじんまりとまとめられた空気抵抗の少ないキャビンや、その胴体後部に47度の傾斜で取り付けられた重量わずか62kgの小型エンジン。軽量で寿命が長い板バネをつけ、枚数を増して直径をつめた揚力ロータと簡潔なロータ駆動系統など、すぐれたアイデアをとり入れて小型、軽量化に努めたので、最大速度241km/h、航続距離611km、乗員2名と武装兵4名を乗せる高性能傑作ヘリコプタが誕生しました。

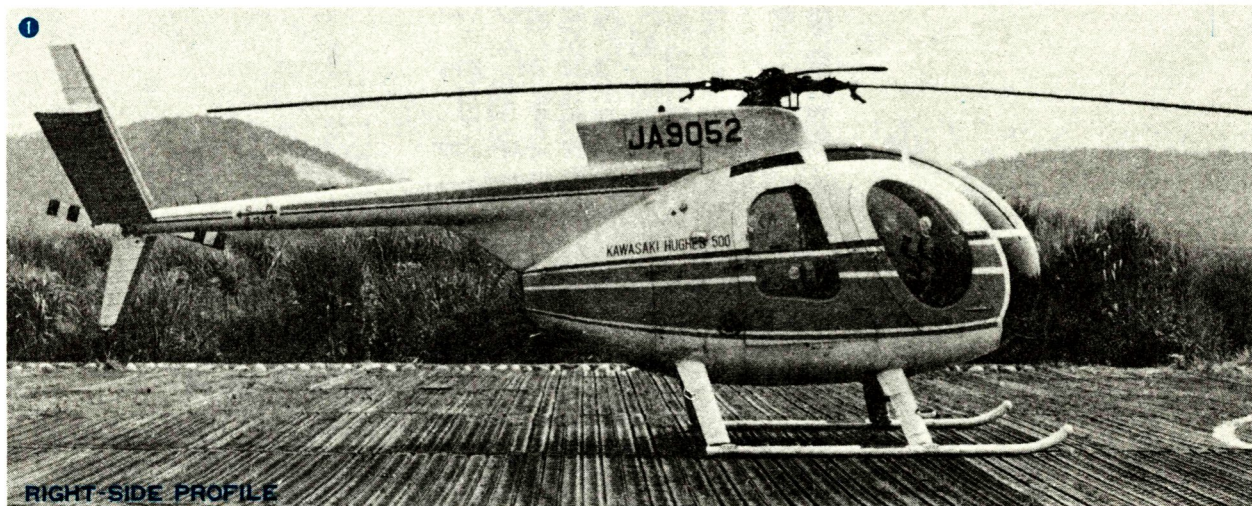
民間型のH 500は、ドライブシステムやパワー・クーリングシステムの配置がえによって内容積が増加し、居住性が向上されています。またランディング・スキッドはフロート装着可能にした延長型もあります。

このように従来のヘリコプタとしての概念をはるかにこえる傑作機は、外国軍隊や民間会社に採用されています。日本でも川崎重工でライセンス生産され、陸上自衛隊をはじめ、消防庁や警察関係、東北電力、上信開発、東綿などで多数使用されています。

日本模型株式会社

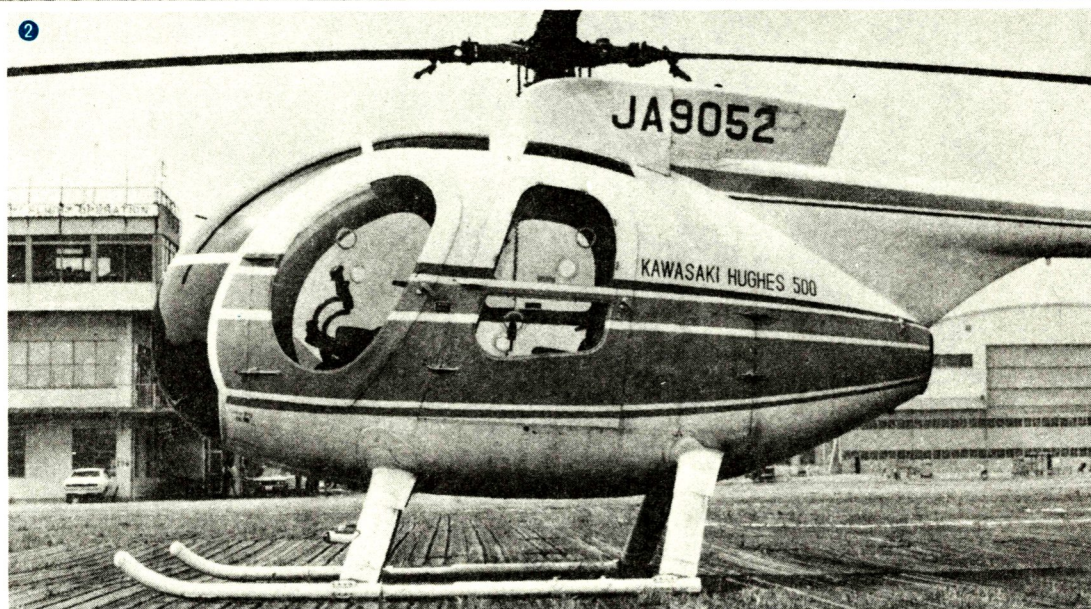
川崎/ヒューズH500 ヘリコプタ

1

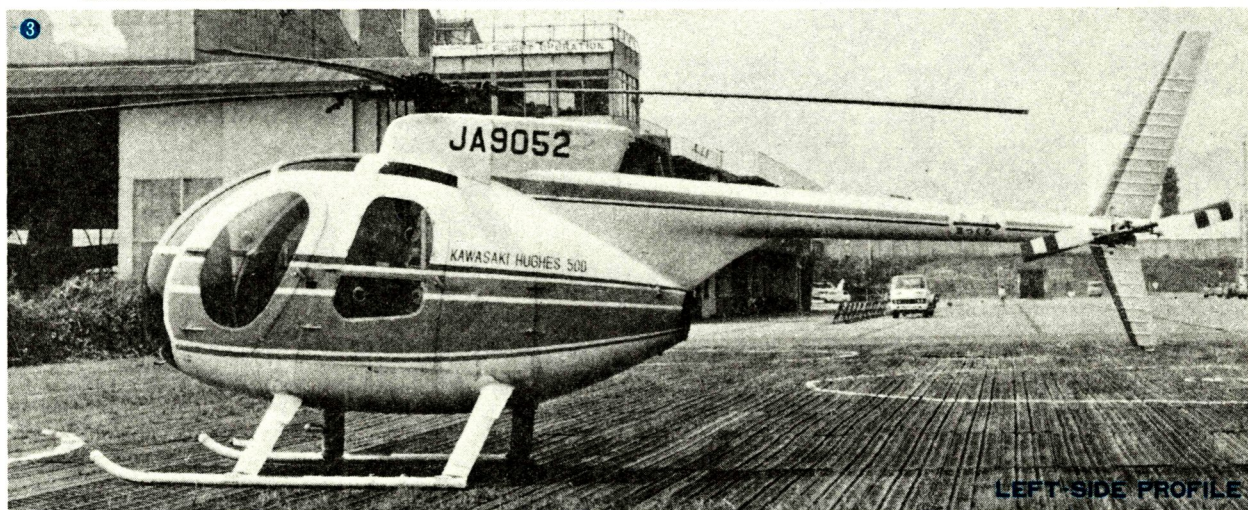


RIGHT-SIDE PROFILE

2



3



LEFT-SIDE PROFILE

《部品をとり出した空袋は、幼児がかぶつたりしないように破りすててください》

### 組立て始める前に 読んでください。

1. 組立てを始める前に、説明書をよく読んでください。特別むずかしい工作はありません。順序をまちがえないように組立ててください。
2. 組立て始める前に、パーツが全部そろっているかを確認、失くさないように注意します。
3. 組立ては説明書の順にしたがい、接着する前にセロテープなどで仮り組みをして、接着する部分を確認します。パーツはそのつどランナー(枠)から切り離します。切り口は小刀できれいにけずり、紙ヤスリで仕上げます。

4. 部品一覧表と部品図は、19、20ページについています。このページは切り離して使用すると便利です。

5. 全体的な塗装は原色刷りのカラーガイドを留意しました。細い部品や説明不足のところは、説明書の中で《塗装メモ》として補足しました。

6. 組立ての途中で塗装する部分、マークをはっておくところがあります。説明書をよく読んで、ムダなく作業を進めてください。

7. 部品などのお問い合わせは、下記の本社サービス係にお願いいたします。  
野市久保町135  
(〒327) 栃木県佐野市久保町135  
(TEL.0283-2-4466) サービス係  
日本模型株式会社

### 《塗装について》

色をぬる前の準備として、ポデーや部品の油気を中性洗剤でよく洗い落とします。方法としては、うすめた中性洗剤を筆につけ、一つ一つをていねいに洗います。部品は枠につけたまま洗ってください。洗い終わったら乾いた布を押しあてて水気を取り、風通しのよいところで乾かします。  
塗料はプラスチック専用のラッカー(モデルカラー)を使います。必要な色は右にあげておきました。  
胴体や室内のように広い面積をぬるときには、ピースコンなどでスプレー塗装するのがいちばんです。ラッカーは筆ぬりのときの倍くらいにうすめて使います。ラッカーが濃すぎると美しい光沢ができません。

### 《デカールについて》

デカールは使用する部分を切り取り、水をつけます。しばらくしたら台紙からマークをずらして転写するところに移し、柔らかい乾いた布を押しあてて水分を取ります。水に長時間ひたしておくと、裏面のノリがとれてしまいますから注意します。

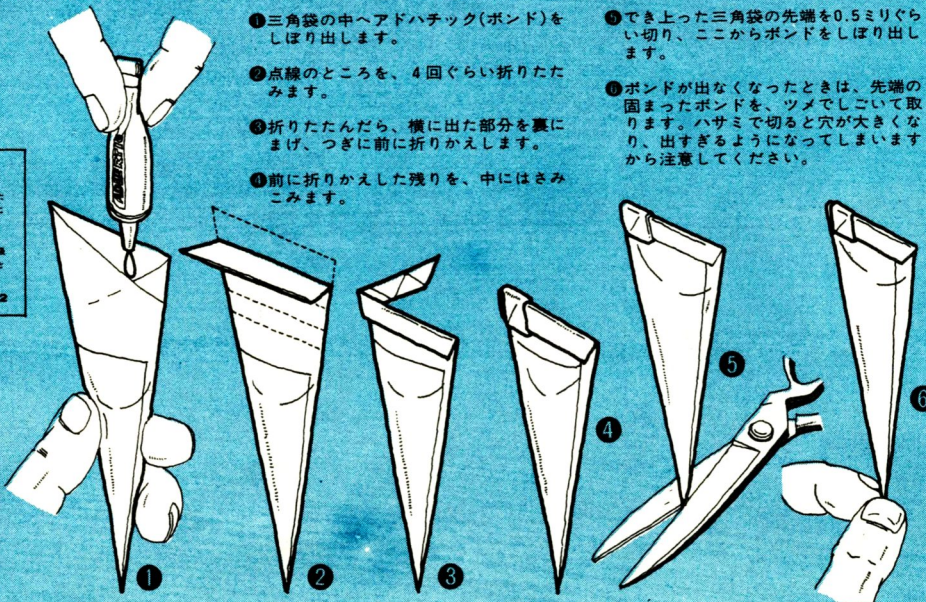
### 《塗装に使用するモデルカラー》

このキットには、つぎのモデルカラーを使います。

- ①ホワイト(白)……機体の全面塗装と室内などに使います。
- ②ブラック(黒)……赤と混ぜて座席などに使います。
- ③レッド(赤)……黒と混ぜて座席などに使います。
- ④イエロー(黄)……エンジン・ホルダーと、茶色と混ぜてフロア・マットに使います。
- ⑥グリーン……少量を計器板に使います。
- ⑦ブラウン(茶)……少量を黄色と混ぜてフロア・マットに使います。
- ⑧シルバー(銀)……エンジン本体、その他に使います。
- ⑨銅(銅)……銀に混ぜて、エンジン本体に使います。
- ⑩黒鉄色……メイン・ローターに使います。
- ⑪灰白色……少量をエンジン本体に使います。
- ⑫グレー……少量をエンジン本体に使います。
- ⑬クリヤオレンジ……クリヤブルーと混ぜて風防に使います。
- ⑭クリヤブルー……クリヤオレンジと混ぜて風防に使います。
- ⑮フラットベース……ツヤ消し塗装するときに使います。

### 《三角袋の使いかた》

**接着剤品質表示**  
●幼児の手の届かないところに保管し、いたずらに注意し、使用用以外に使用しないこと。  
●取扱注意  
●有害物質が含まれているので、服用して使うと有害で、くせになり健康を害することがあるので注意に願わないこと。  
販売者 SZ-3000 SZ-3022



- ①三角袋の中へヘッドハチック(ポンド)をしばり出します。
- ②点線のところを、4回ぐらい折りたたみます。
- ③折りたたんだら、横に出た部分を裏にまげ、つぎに前に折りかえます。
- ④前に折りかえした残りを、中にはさみこみます。

- ⑤でき上がった三角袋の先端を0.5ミリぐらい切り、ここからポンドをしばり出します。
- ⑥ポンドが出なくなったときは、先端の固まったポンドを、ツメでこいて取ります。ハサミで切ると穴が大きくなり、出すぎらなくなってしまいますから注意してください。

# ①座席の組立て

- 仕切り壁A4, A5をはり合わせ、コクピット・フロアC14に接着します。
- コクピットに操縦関係の部品をとりつけます。
- フロントシートを組立てます。

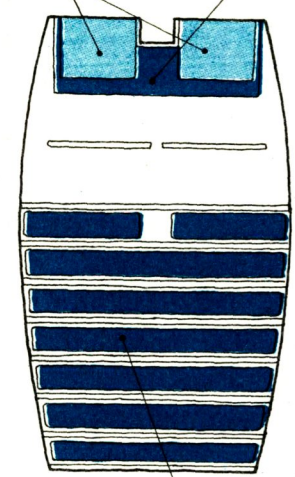
シートベルトは、紙片などを3ミリ幅に切って使います。長さはそれぞれの指定にしたがってください。  
 接着はセットのアドハチックでもつきますが、なるべくセメダイン・コンタクトなどのボンドを使ってください。

### 〈塗装メモ〉

—仕切り壁(かべ)—  
 仕切り壁は、黄色がかった半ツヤの白でぬります。この色は①白96%+④黄色3%+③赤1%で調合します。

—コクピットフロア—

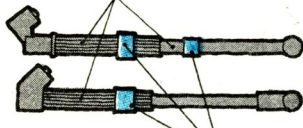
山ぶき色 黒っぽい赤



ベルト・マット=黒っぽい赤  
 フロアは半ツヤの黒でぬり、マットをツヤ消しの少し黒っぽい赤にします。フットステップのところのマットは、④黄色に⑦茶色を少し混ぜた山ぶき色のツヤ消しでぬります。

—操縦桿C・D—

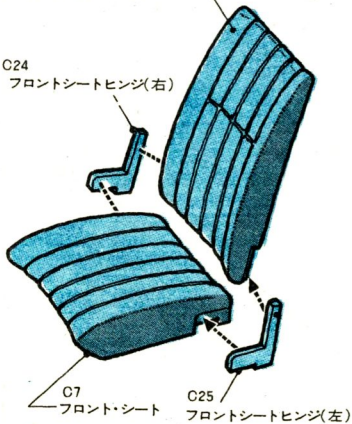
全体を半ツヤの黒



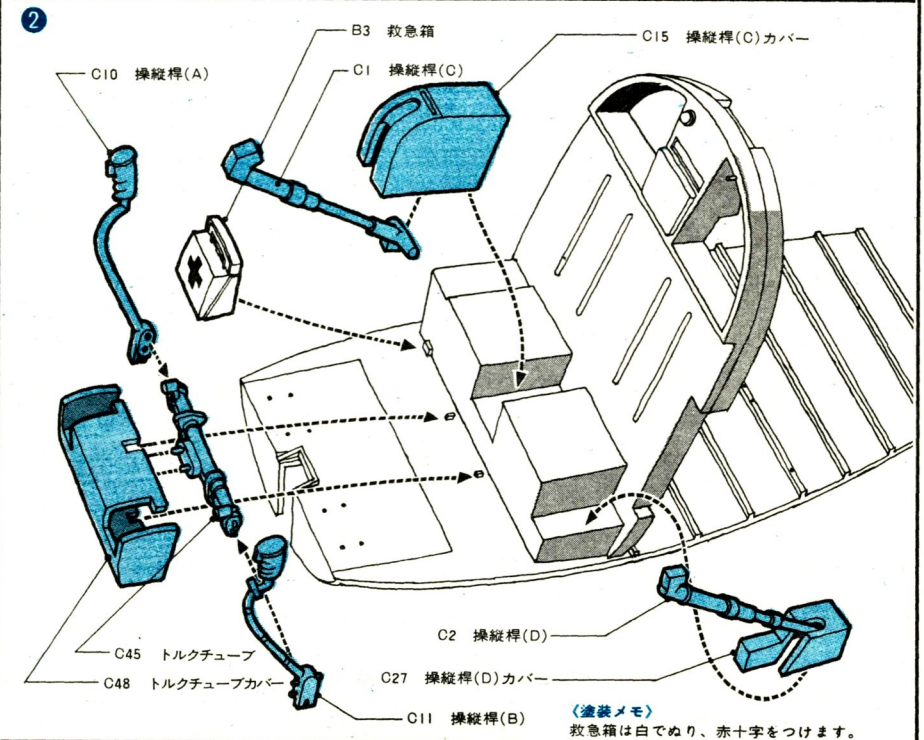
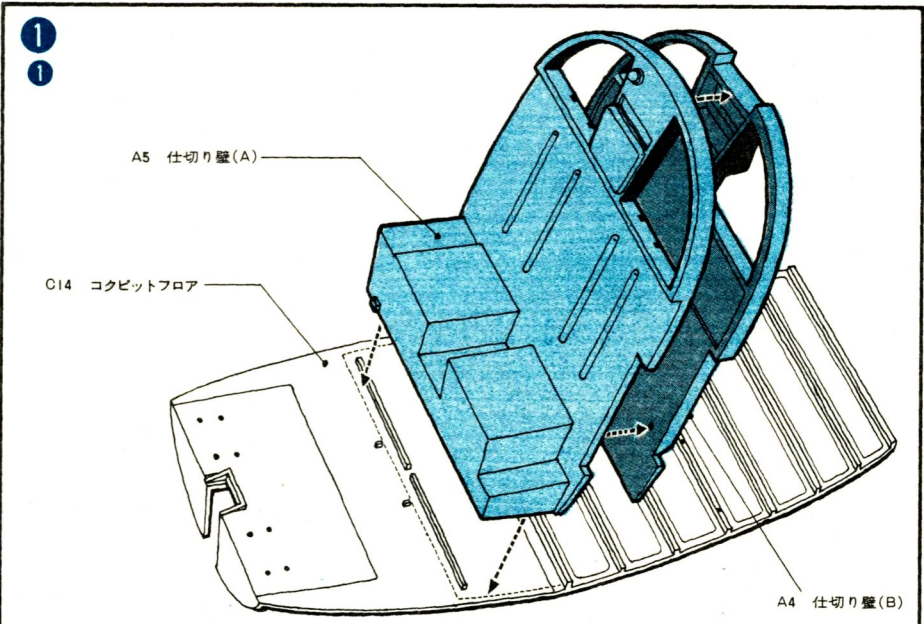
⑧シルバー(銀色)

C6フロントシートバック

C24 フロントシートヒンジ(右)

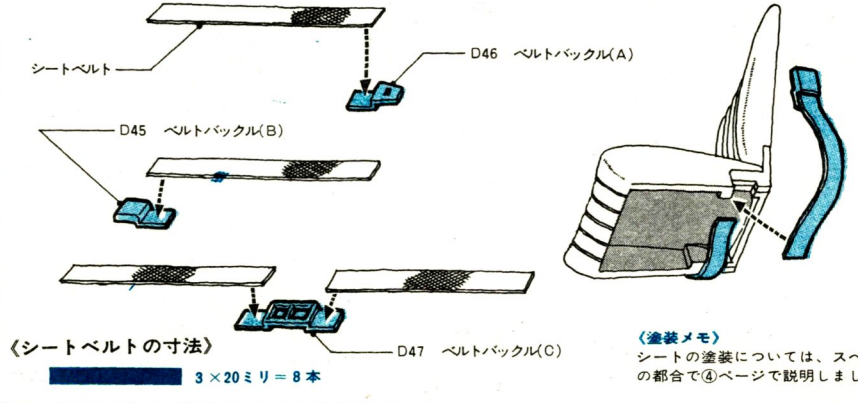


C7 フロントシート C25 フロントシートヒンジ(左)



〈塗装メモ〉  
 救急箱は白でぬり、赤十字をつけます。

## ③ シートベルトは紙片または、ビニール片を利用して作ってください。



〈シートベルトの寸法〉  
 3×20ミリ=8本

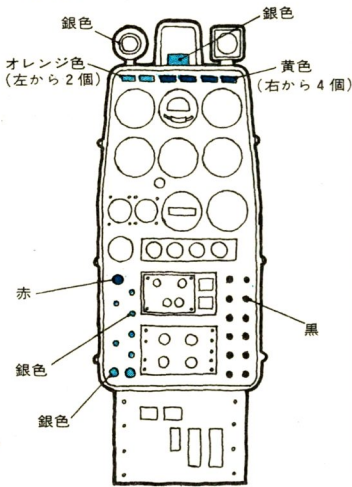
〈塗装メモ〉  
 シートの塗装については、スペースの都合で④ページで説明しました。

① フロントシートを接着し、部品やベルトをつけます。

② 計器板は計器類の彫刻されたものと、マークをはるためにノッペリしたもの2種類あります。どちらか選んで組立ててください。

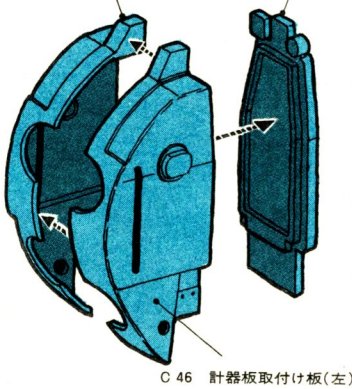
《塗装メモ》

—計器板—

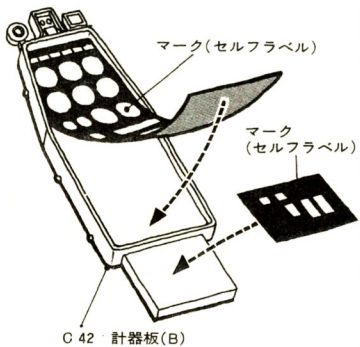


計器板はツヤ消しの黒でぬり、計器を黒っぽいグリーンにし、目盛りを白でぬります。

C 47 計器板取付け板(右) C 43 計器板(A)



C 46 計器板取付け板(左)

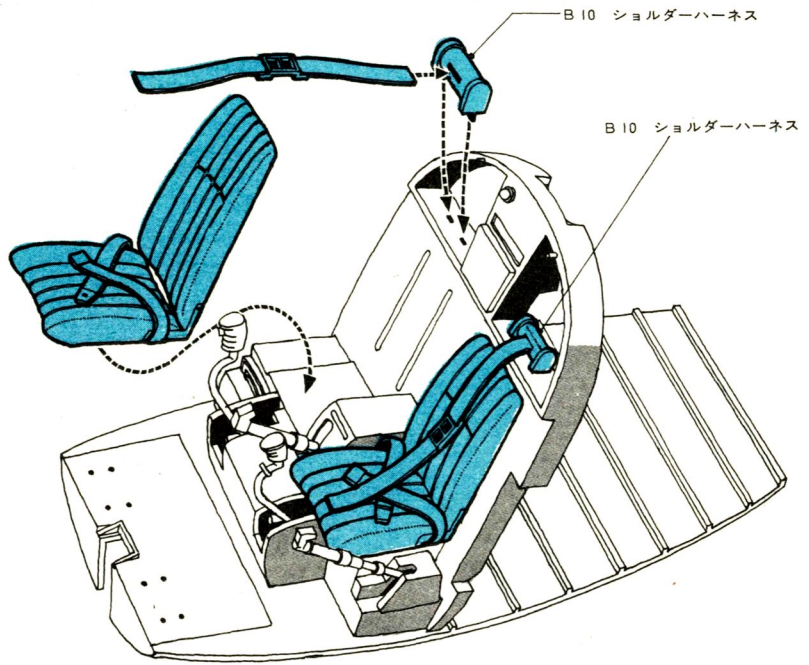


C 42 計器板(B)

④

《塗装メモ》

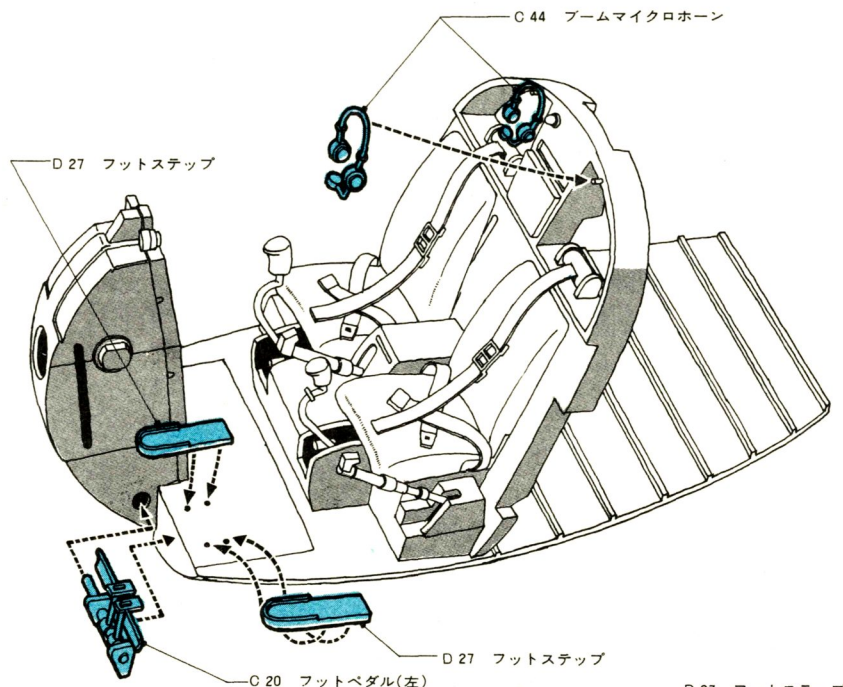
ショルダーハーネスは仕切りかべと同じ、黄色がかった白でぬります。



⑤

《塗装メモ》

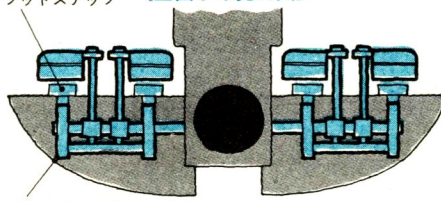
ブームマイクロホンは半ツヤの黒でぬります。フットステップは銀でぬります。



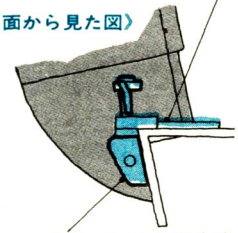
フットペダルはフットステップ下面の凸起と連結するように組立ます。

D 27 フットステップ 《正面から見た図》

《側面から見た図》



C 19 フットペダル(右)



C 20 フットペダル(左)

6 仕切りかべの背面に部品をつけます。

7 トランスミッション・カバーをはり合わせて仕切りかべ(C)に接着します。リアシート・ベースは、下面にシートベース支柱をつけてから、仕切りかべに接着します。

**【注意】**  
7⑧はエキジビション・モデル(展示模型)として組立てる場合の説明です。モーターでローターを回転させて楽しむときは、⑨の説明で組立ててください。

8 シートは③と同じ方法で組立て、リアシートベースのケガキ線に合わせて接着します。

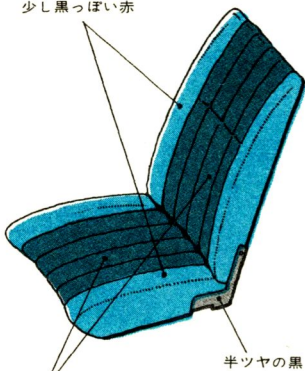
**【塗装メモ】**

仕切りかべの背面—  
シートポケットは仕切りかべと同じ色でぬり  
ます。灰皿は半ツヤの黒です。コンベニンス  
パネルは半ツヤの黒でぬり、円形の凸部を銀  
色でぬります。

トランスミッション・カバー—  
トランスミッション・カバーと仕切りかべは、  
前部の仕切りかべと同じ色でぬります。  
リアシート・ベースとシートベース支柱は、  
半ツヤの黒でぬります。

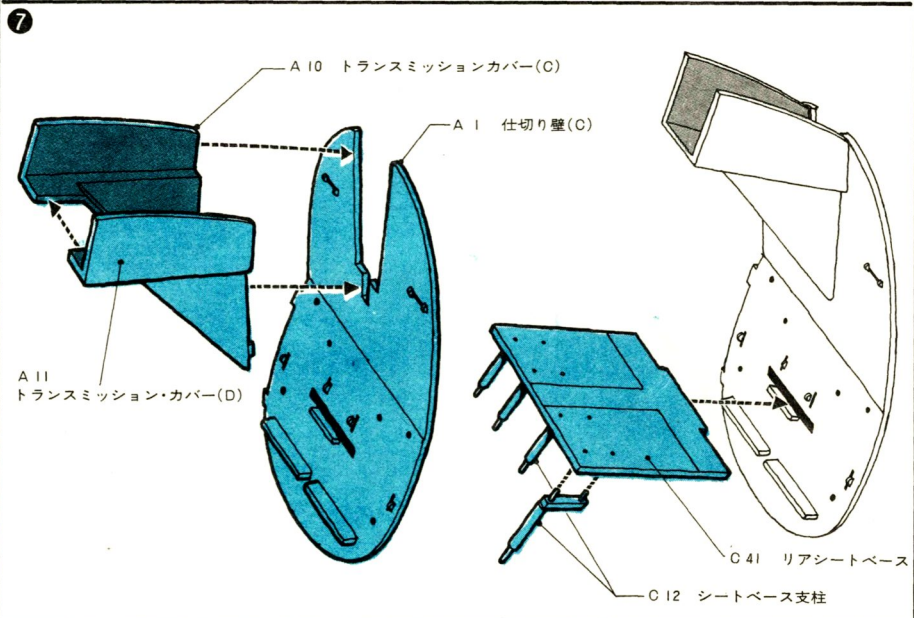
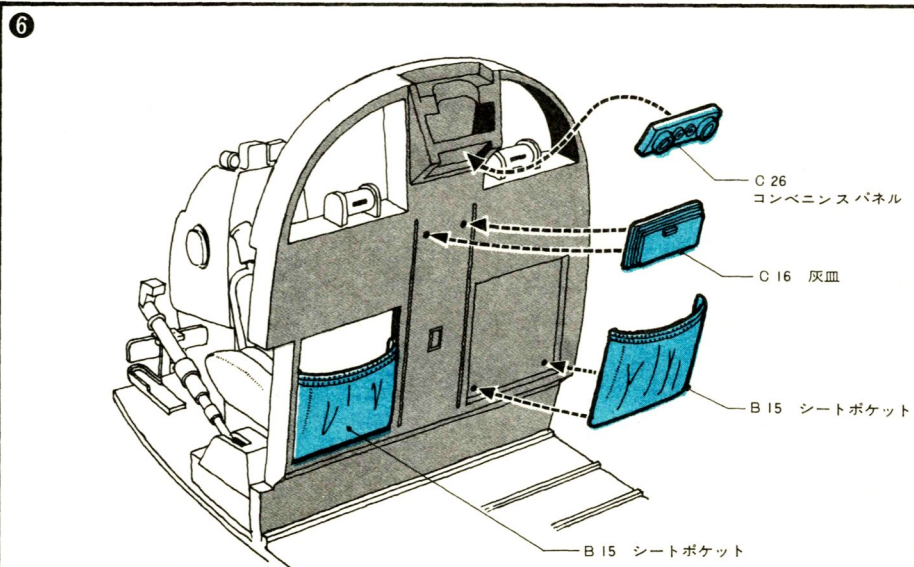
—シートのぬりかた—

少し黒っぽい赤

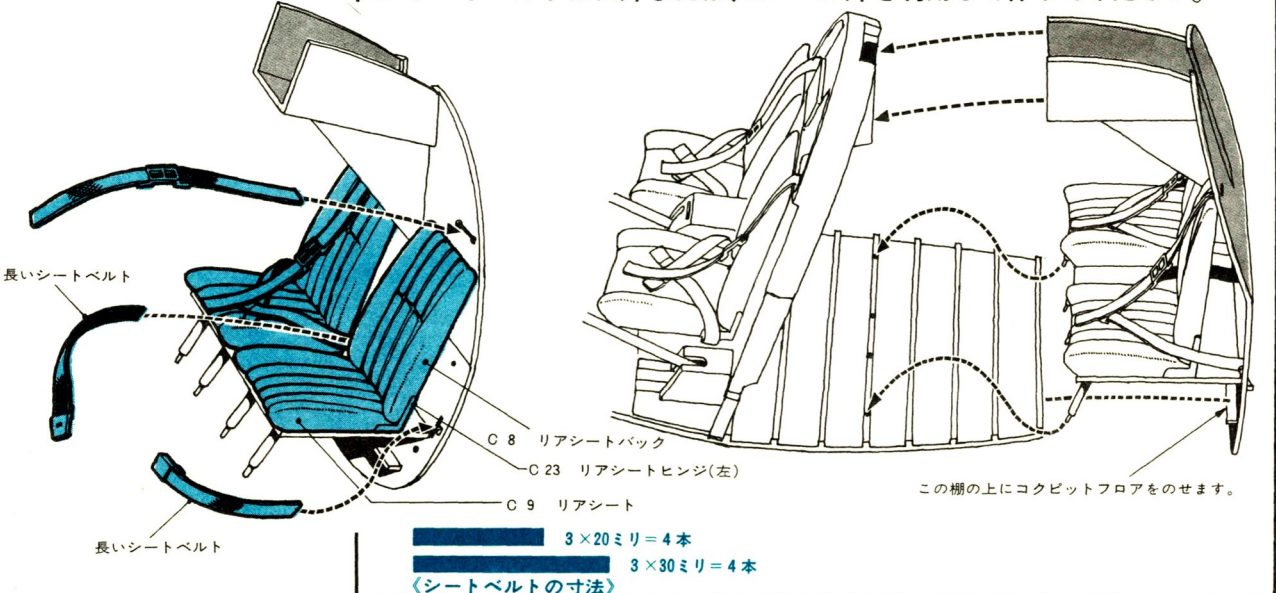


黒っぽい赤

シートの両がわをツヤのある少し黒っぽい赤  
でぬり、中を黒っぽい赤の半ツヤ消してぬり  
ます。シートヒンジは半ツヤの黒にします。

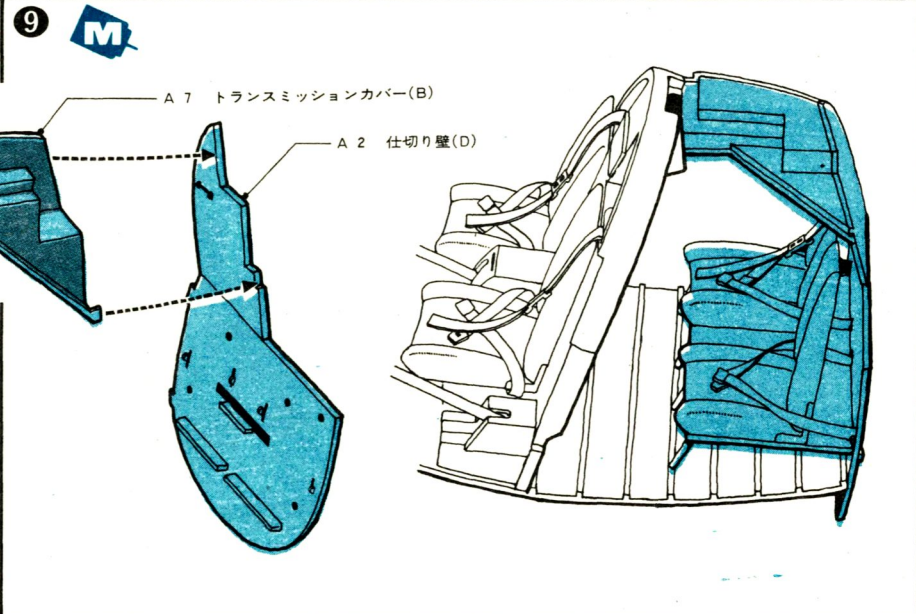


8 シートベルトは紙片または、ビニール片を利用して作ってください。



3×20ミリ=4本  
3×30ミリ=4本  
〈シートベルトの寸法〉

**M** 説明図の中で、このマークのついていたところは、モーターライズして組立てるための説明です。  
エキジビション・モデル(展示模型)と共通で組立てる部分もありますから、説明図をどばさずに注意して見てください。

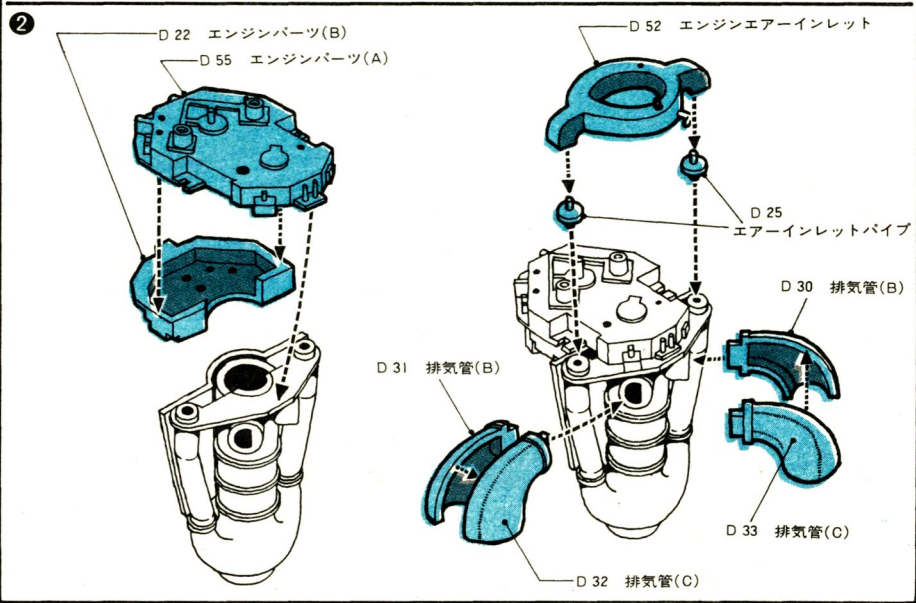
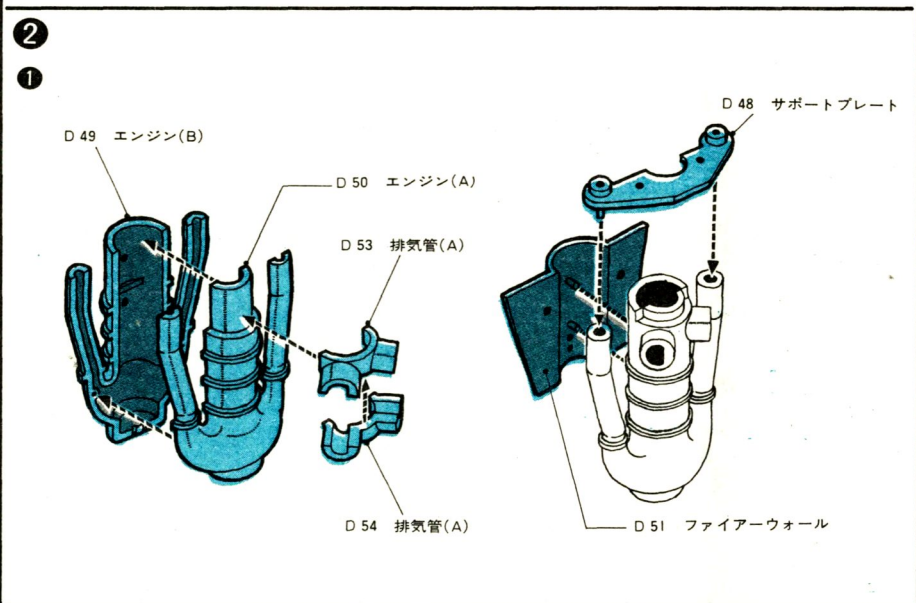
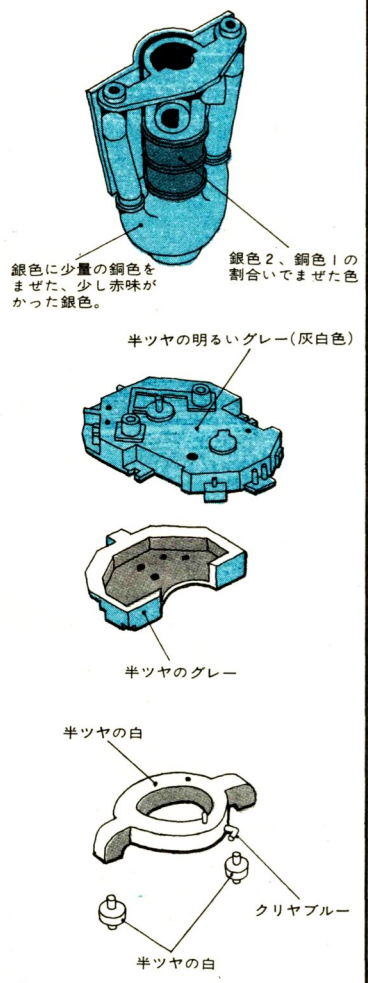


**9** モーターライズ用の仕切りかべを組立て、リヤシートを接着し、座席を仕上げます。

## ② エンジンの組立て

**1** 説明図に従ってエンジンの本体を組立てます。

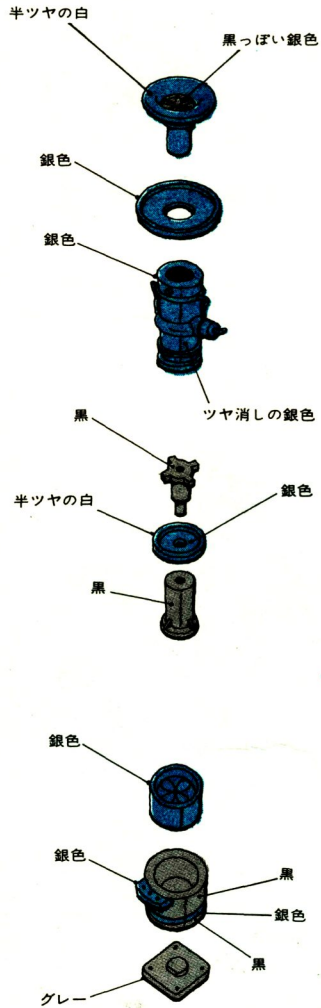
〈塗装メモ〉  
—エンジン本体—



②③ 説明図に従って、それぞれの部品をつけます。

④ 後部仕切りかべの背面にエンジン・マウントを接着し、組立てたエンジンを取りつけます。モーターライズの場合は⑤の説明を見てください。

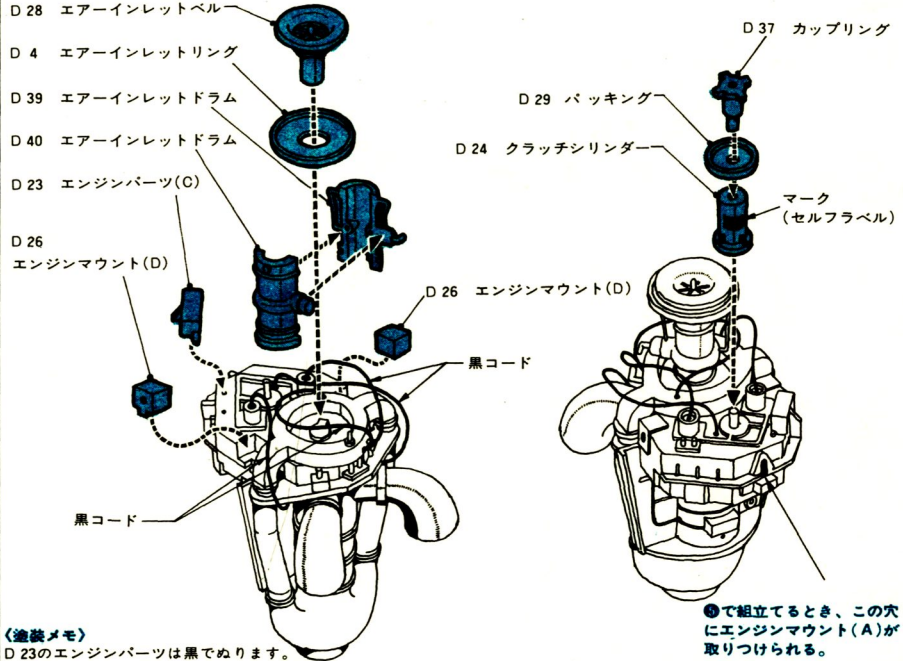
《塗装メモ》  
—エンジン部品—



—排気管—



③

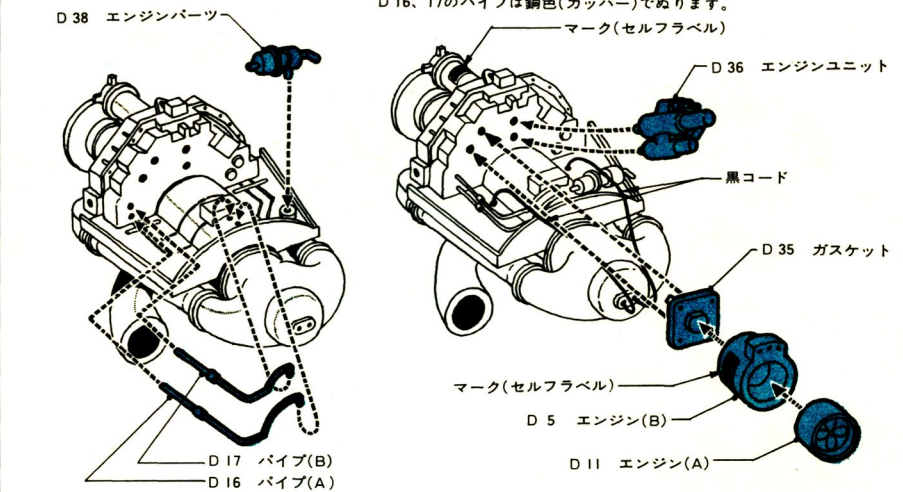


《塗装メモ》

D 23のエンジンパーツは黒でぬります。

④で組立てるとき、この穴にエンジンマウント(A)が取り付けられる。

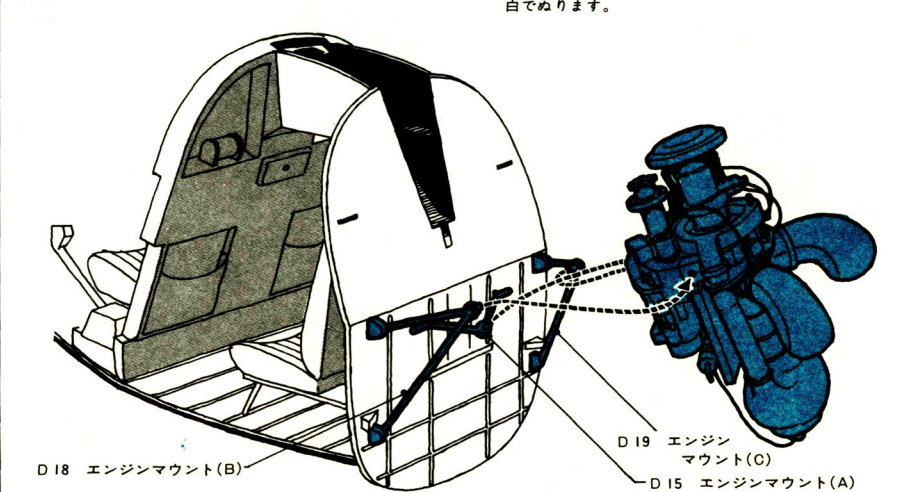
④



《塗装メモ》

D 38のエンジンパーツ、D 36のエンジンユニットは銀色でぬります。D 16、17のパイプは銅色(カッパー)でぬります。

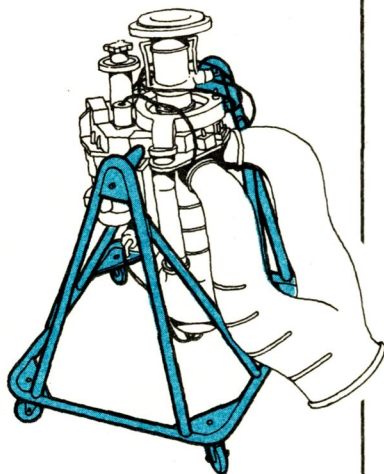
⑤



《塗装メモ》

エンジンマウントは仕切りかべと同じ、黄色がかった白でぬります。





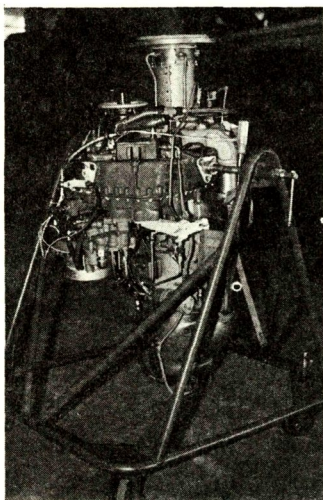
⑥  
モーターライズの場合のエンジンは、アングルでエンジンホルダーを組立て、機外にかざっておけるようにします。

エキジビション・モデルのときは、排気管は組立てたままでおき、つぎの説明のときにとりつけます。

〈塗装メモ〉

—エンジン・ホルダー—  
全体を半ツヤの黄色でぬり、C 5 アングル・ホイールのタイヤをツヤ消しの黒でぬります。

〈実機の参考写真〉



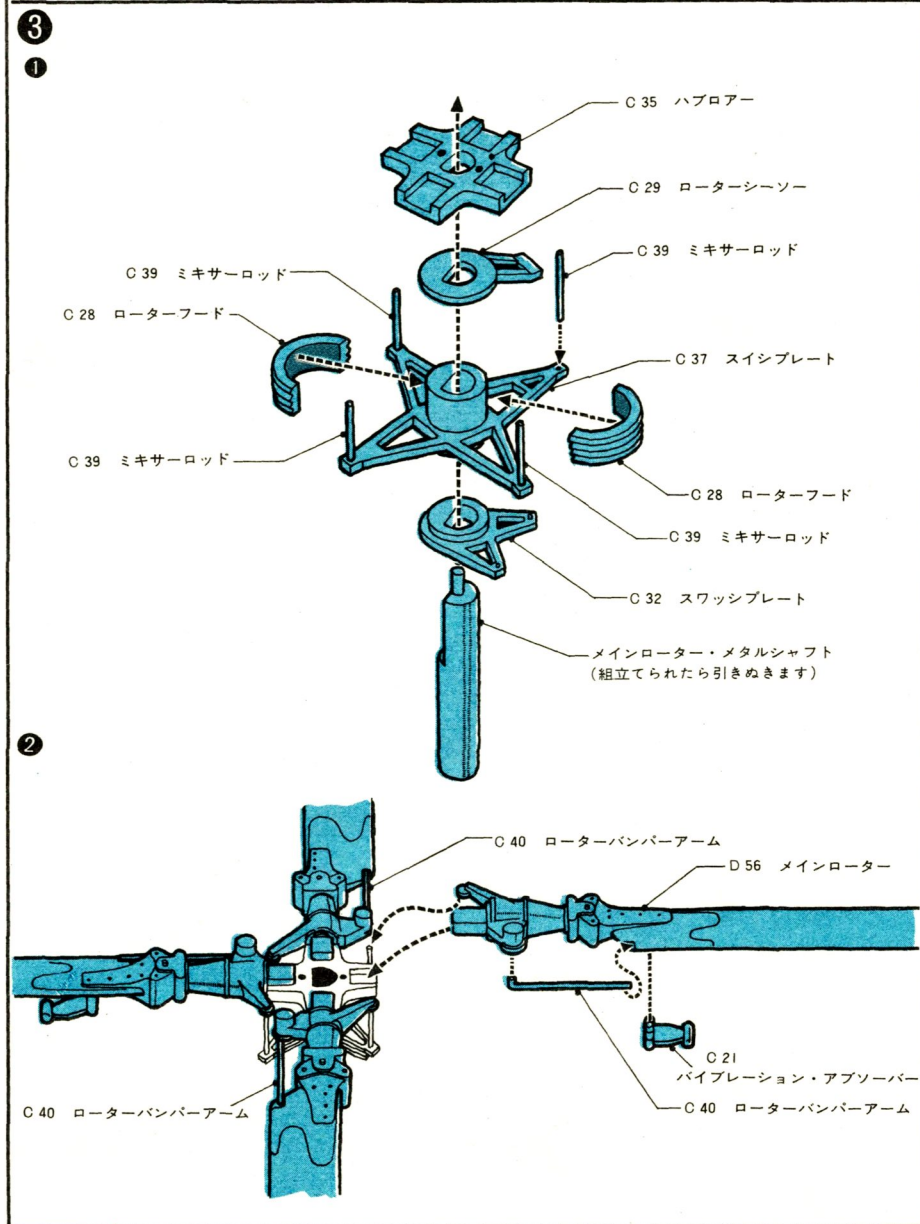
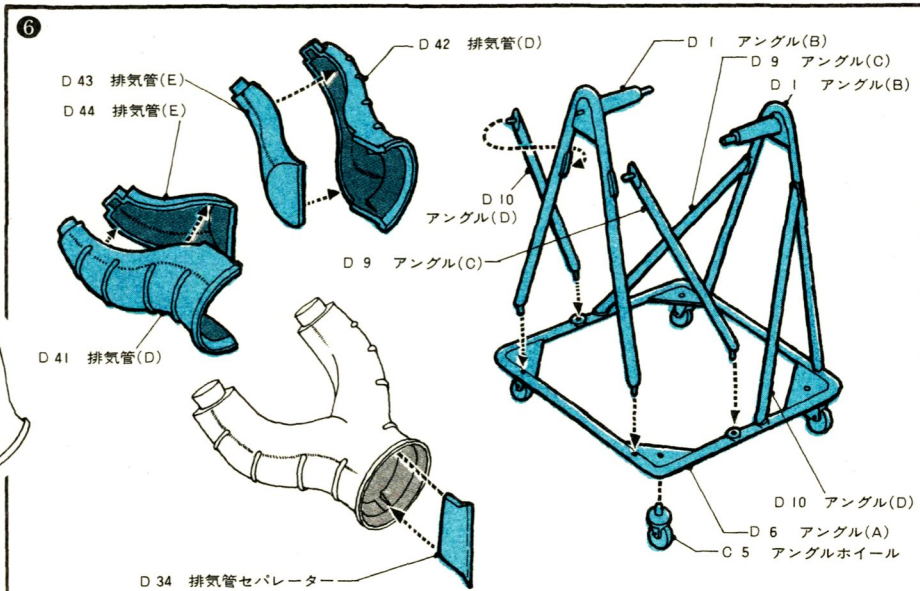
③ メイン・ローターの組立て

①  
メインローターの回転部は、金属のメインローター・メタルシャフトを軸にし、各部品を順にさしこみながら組立えます。接着できたら、メインローター・メタルシャフトを引きぬきます。

②  
メインローターを接着し、ローター・バンパーアーム、バイブレーション・アブソーバーなどの部品をつけます。

〈塗装メモ〉

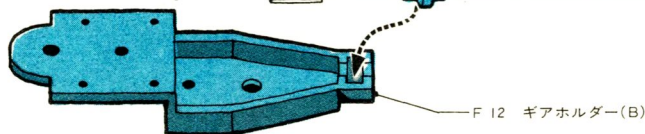
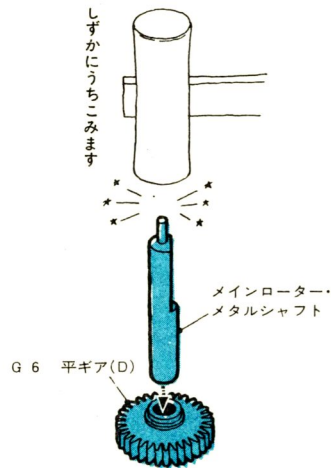
—メイン・ローター—  
ローターの回転部、メイン・ローター、その他の部品とも黒鉄色でぬります。



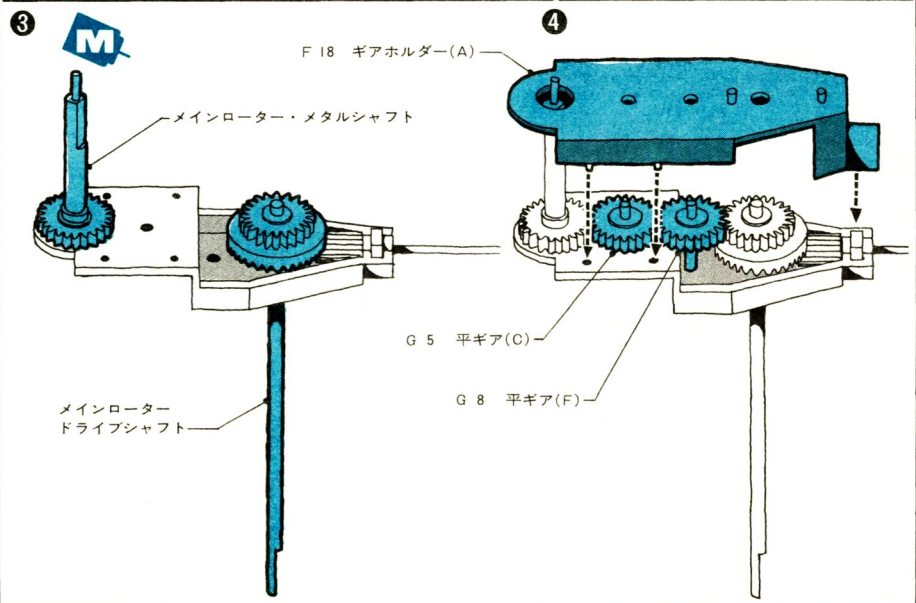
③  
メインローターにハブ・アッパーを接着して  
完成させます。

## 4 ローター・ギアの 組立て

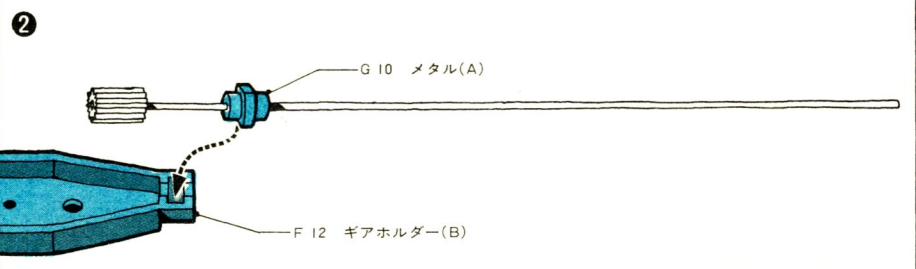
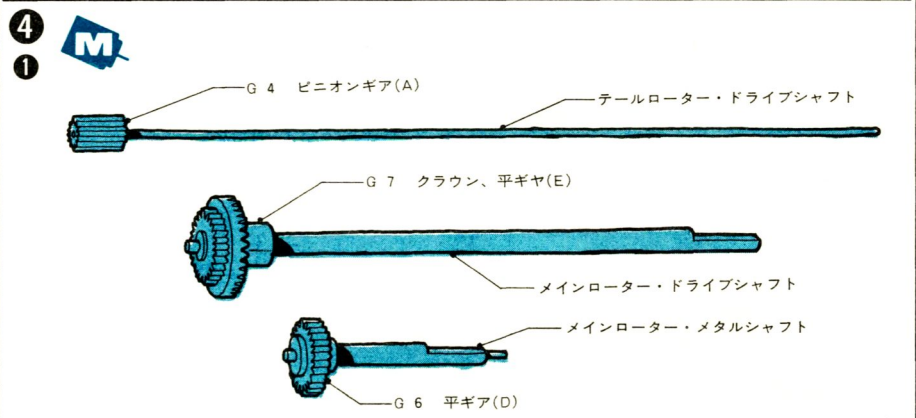
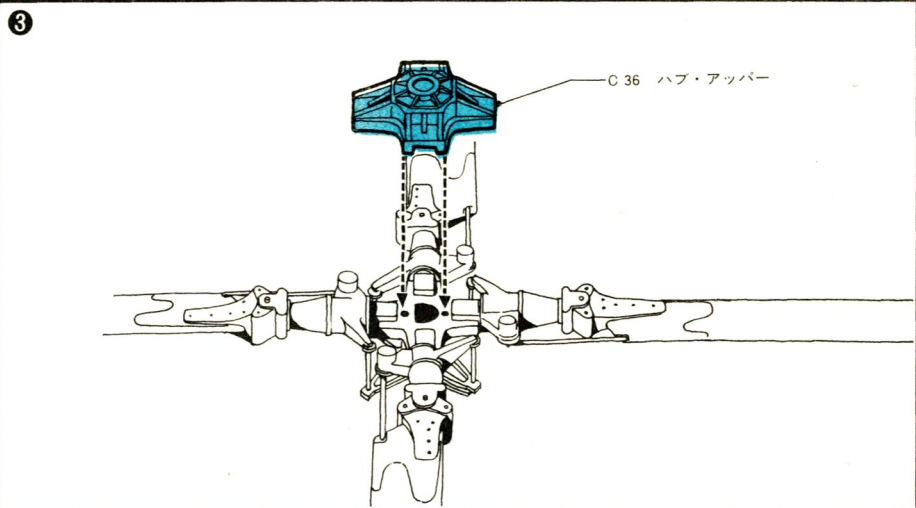
①  
テールローター・ドライブシャフト、メイン  
ローター・ドライブシャフト、メインローター・  
メタルシャフトにそれぞれのギアをつけ  
ます。



②  
テールローター・ドライブシャフトにメタル  
をつけ、ギアホルダーにつけます。

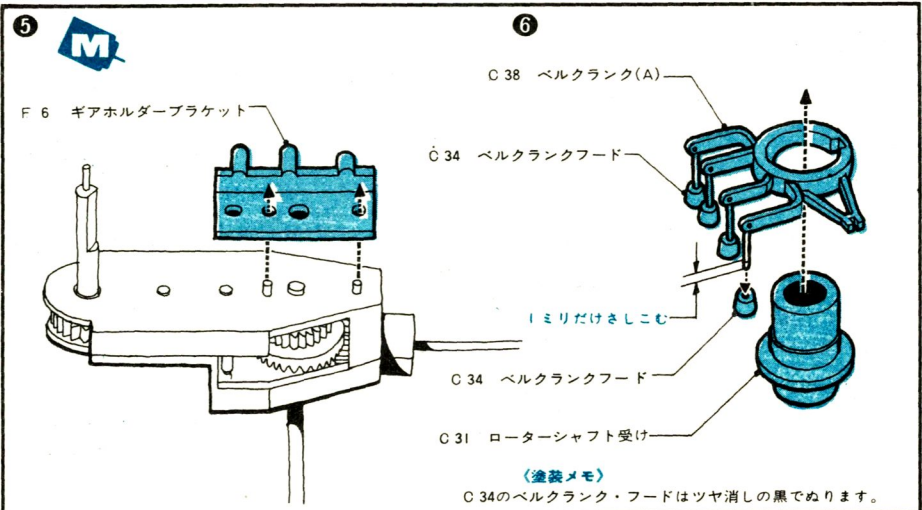


③④  
それぞれの位置にギアをついたら、ギアホル  
ダーを接着して組立てます。

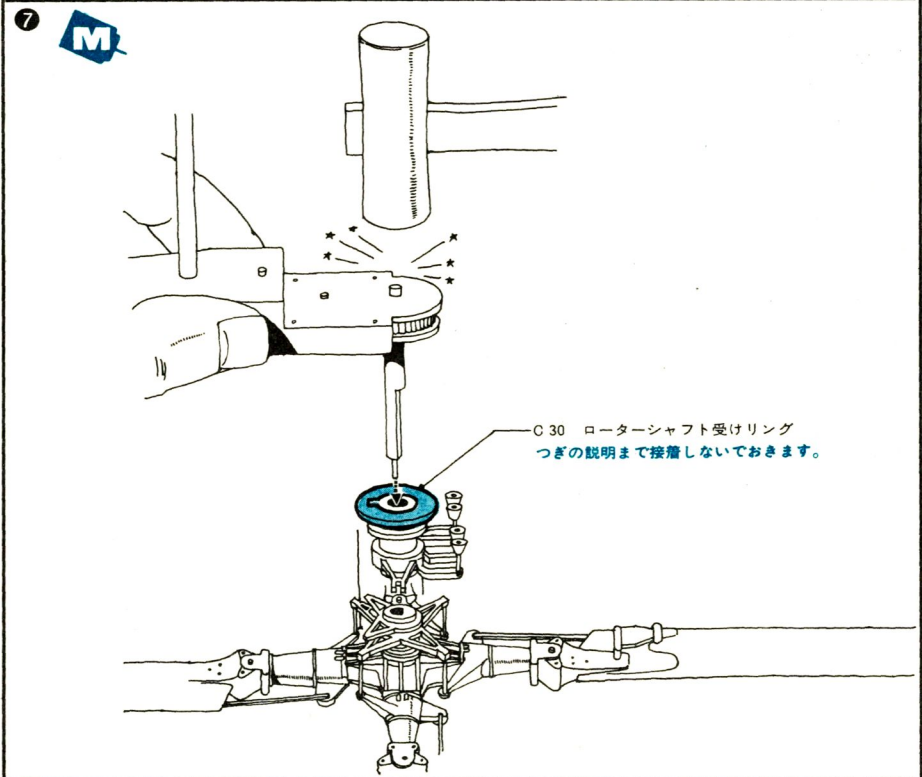


5 ギアホルダー・ブラケットを接着して組立  
ます。

6 ローターシャフト受けに、ベルクランクを接  
着します。



7 メインローターにローター・ギアをうちこみ  
ます。⑥で作ったベルクランクとC 30のロー  
ターシャフト受けリングは、さしこむだけで  
組立えます。



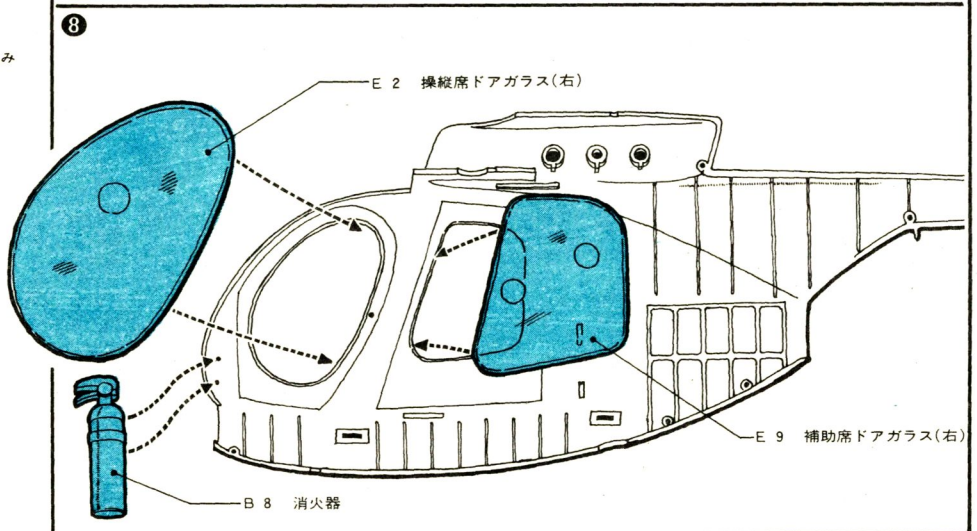
8 胴体の右がわに、ドアガラスと消火器を接着  
します。

《塗装メモ》  
- 胴体内部 -  
胴体内部は、仕切りかべなどと同じ、黄色み  
がかった半ツヤの白でぬります。

- 消火器 -

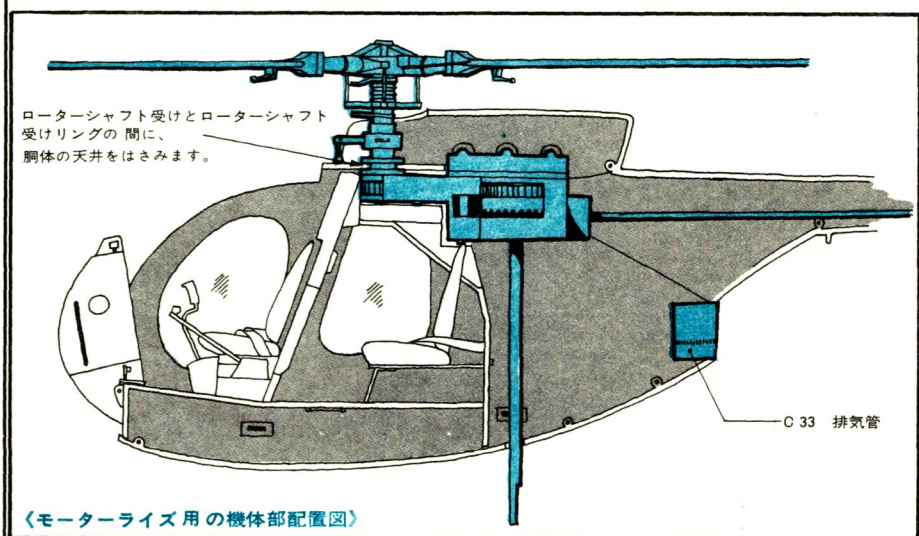
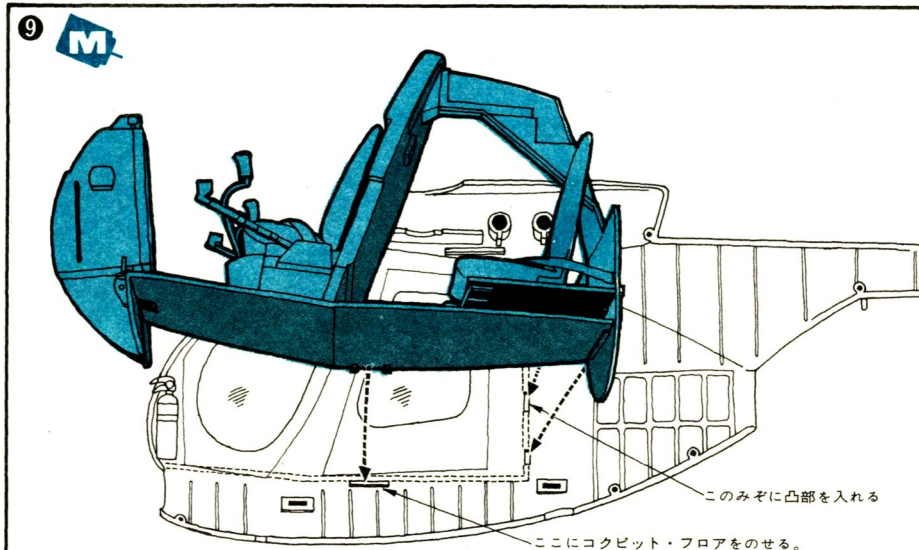
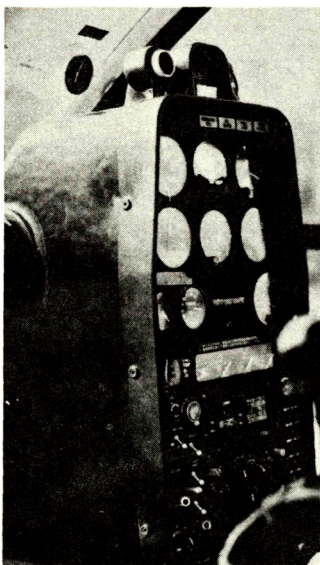
銀色

赤

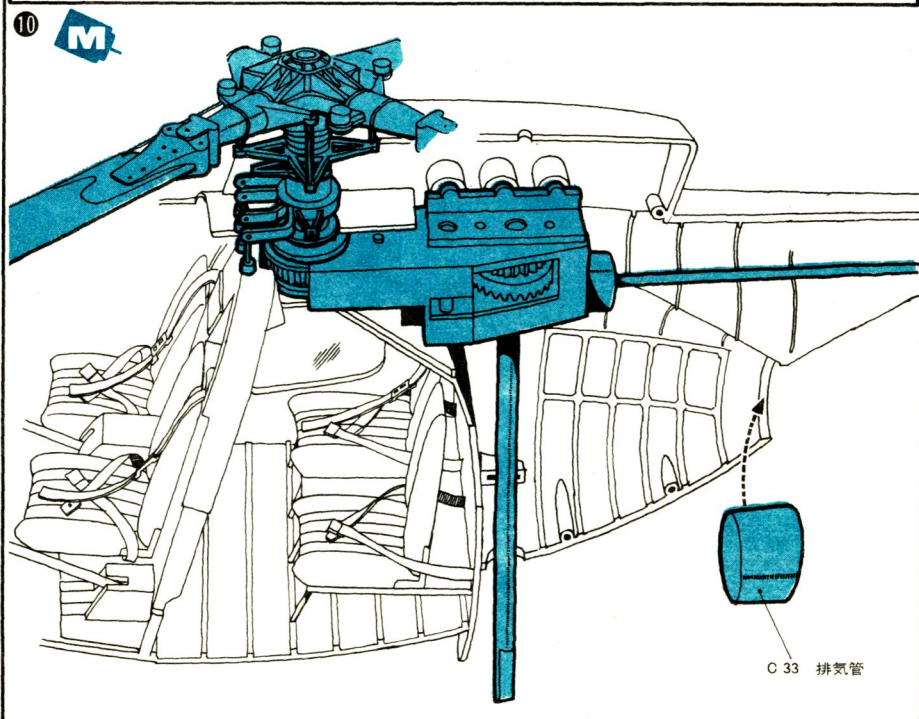


⑨  
座席を胴体内に取り付けます。

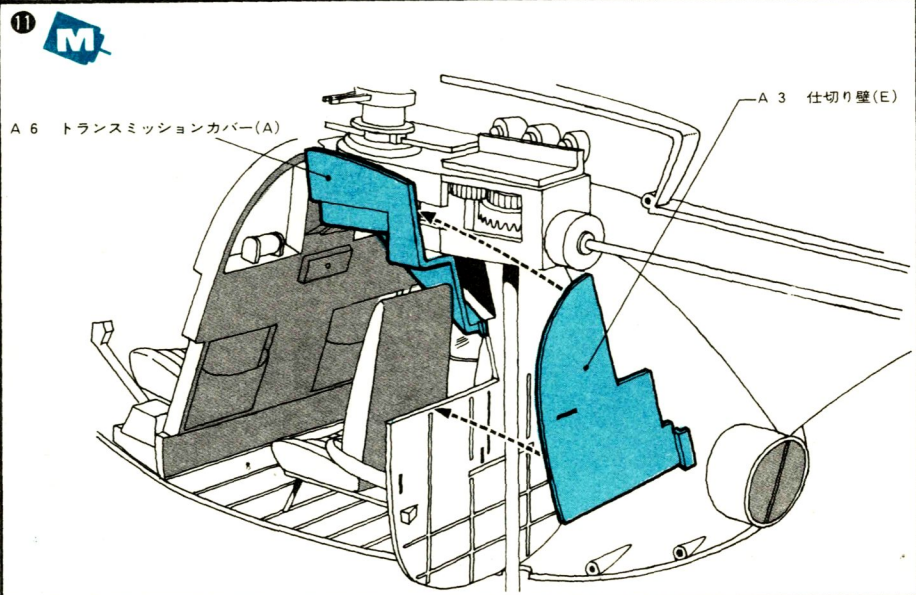
《実機の計器板》



⑩  
ローター・ギアを胴体内に取り付けます。ペルクランクのローターシャフト受けと、ローターシャフト受けリングの間に、胴体の天井をはさんで接着します。

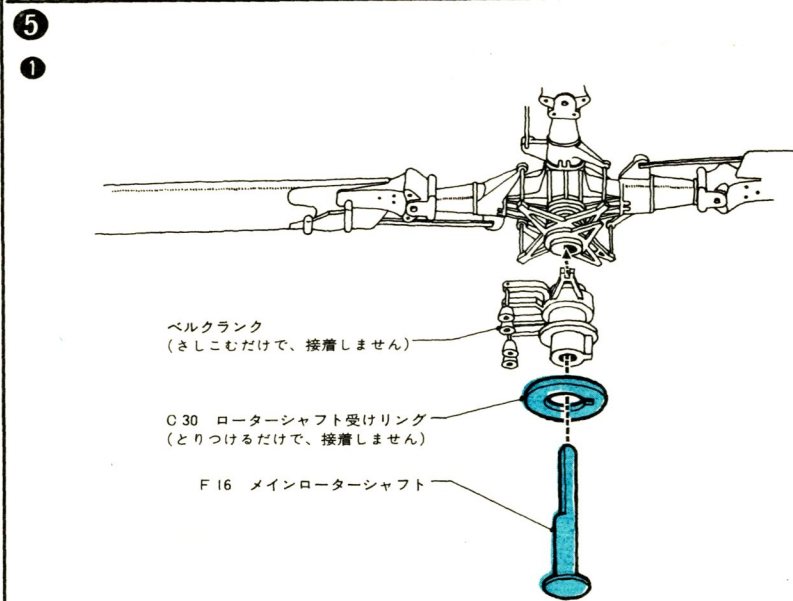


④  
 トランスミッション・カバーと、仕切りかべ  
 を接着して組立てます。

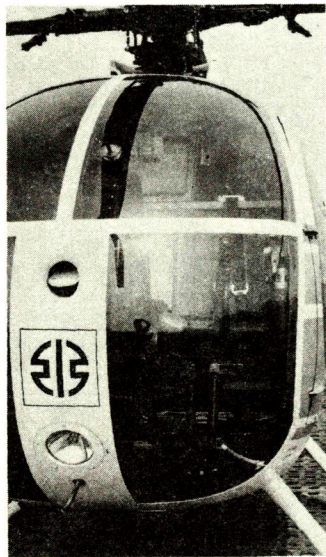


## ⑤ メイン・ローターの とりつけ

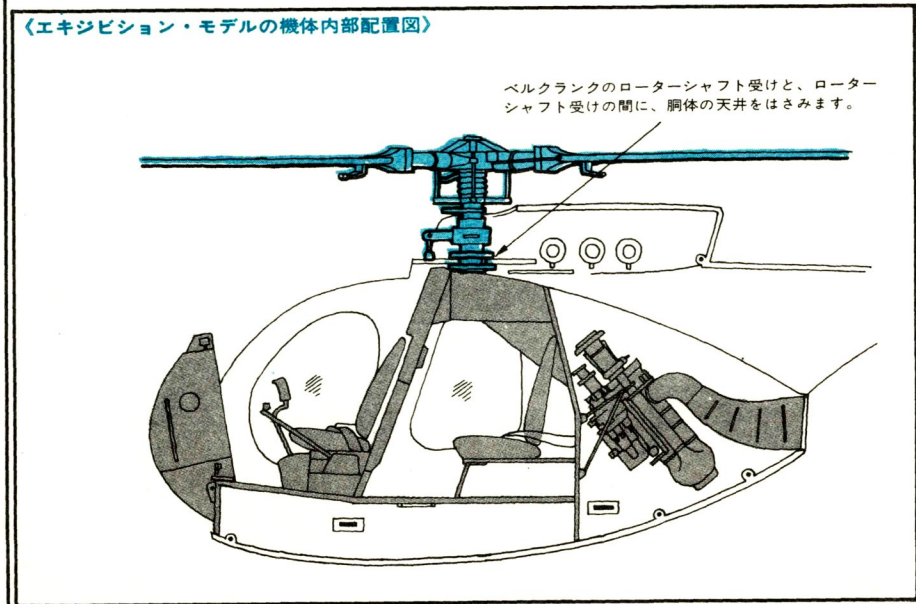
①  
 メインローターの回転部に、メインローター  
 シャフトを接着します。  
 ②で組立てたベルクランクと、ローターシャ  
 フト受けリングは、さしこむだけで組立て、  
 つぎの説明のところで接着します。



〈実機の参考写真〉

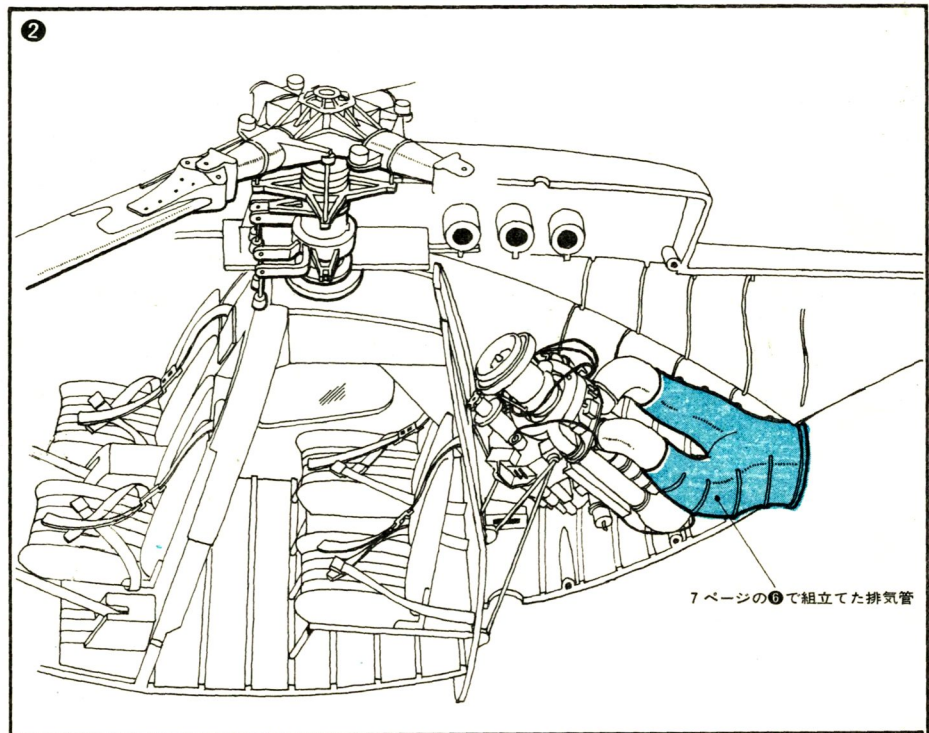
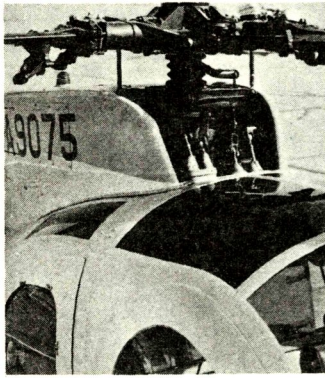


〈エキジビション・モデルの機体内部配置図〉



② 10ページ①と同じように、胴体内に座席を接着します。メインローターは、ベルクランクのローターシャフト受けと、ローターシャフト受けリングの間に、胴体の天井をはさんで接着します。  
エンジンに7ページの⑥で組立てた排気管を接着します。

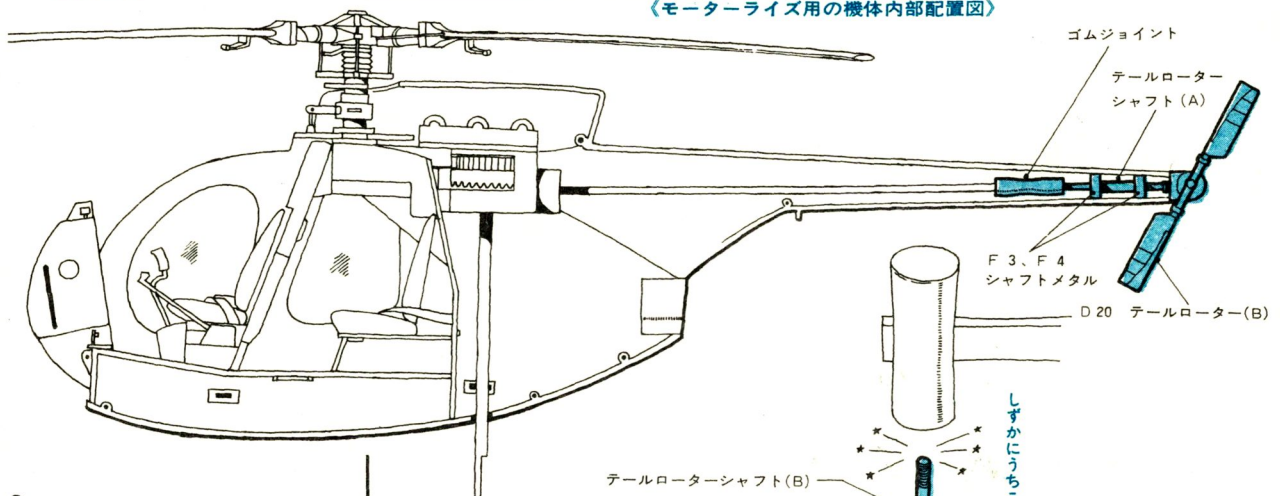
〈実機の参考写真〉



7ページの⑥で組立てた排気管

## ⑥ テール・ローターの組立て

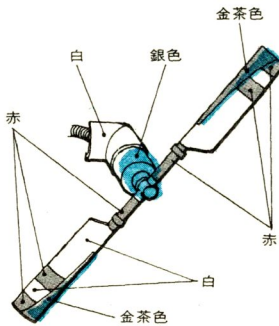
〈モーターライズ用の機体内部配置図〉



① テールローターシャフト(B)にトランスミッション・キャップをさし、D 20のテールローター(B)に打ちこみます。  
テールローター・シャフト(A)にシャフトメタルをつけ、スプリング・ジョイントにねじこみます。  
スプリング・ジョイントをはさんで、トランスミッションをはり合わせ、トランスミッション・キャップを接着します。

### 〈塗装メモ〉

—テールローター—



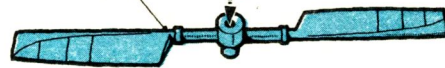
⑥

①



D 12 トランスミッション・キャップ

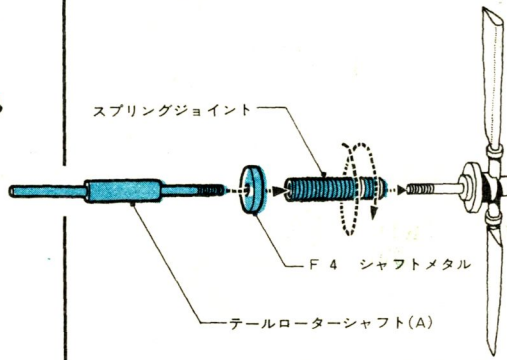
D 20 テールローター(B)



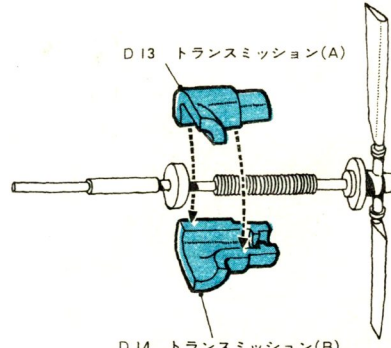
スプリングジョイント

F 4 シャフトメタル

テールローターシャフト(A)



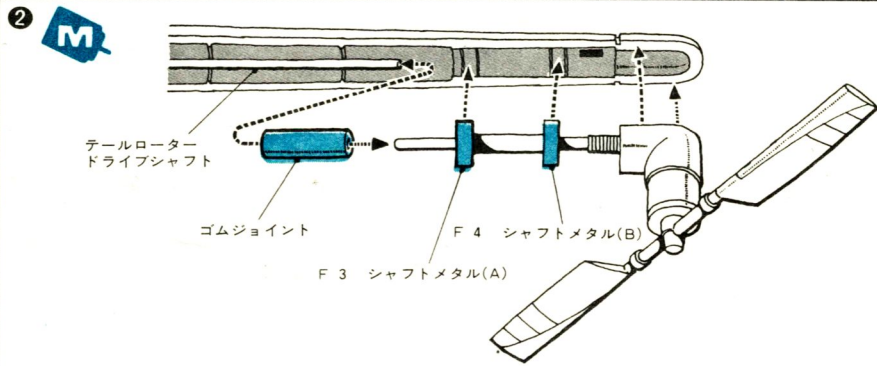
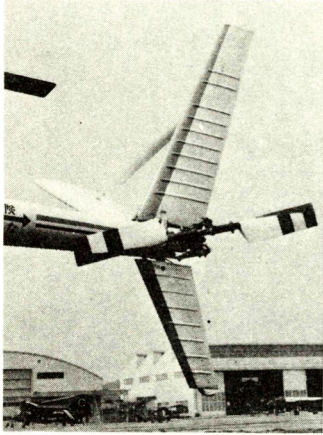
D 13 トランスミッション(A)



D 14 トランスミッション(B)

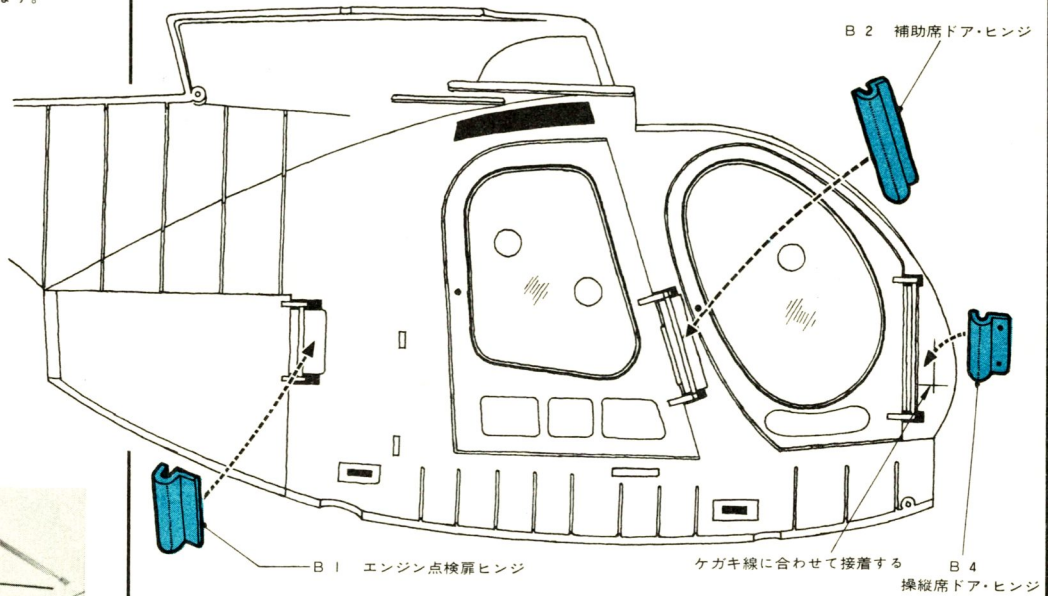
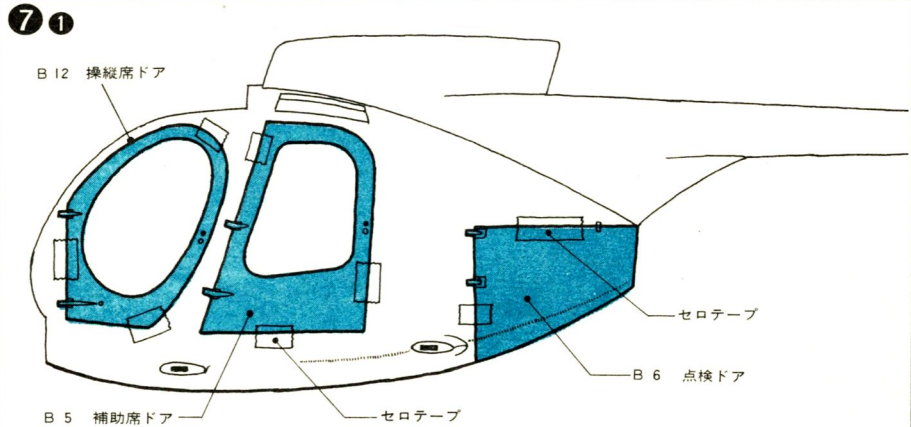
②  
トランスミッションとシャフトメタルを胴体に  
に接着し、ドライブ・シャフトとテールロー  
ター・シャフトをゴムジョイントでつなぎま  
す。

《実機の参考写真》

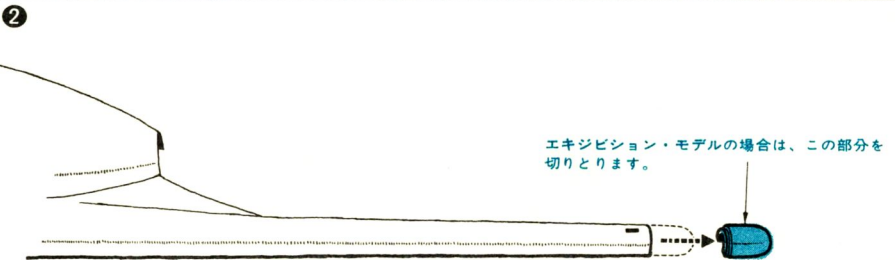
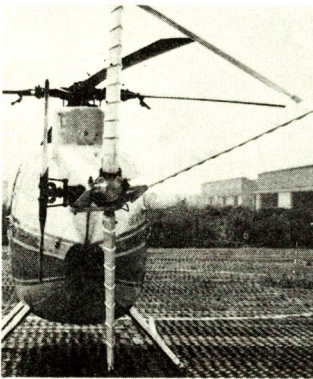


## ⑦ 胴体の組立て

①  
操縦席ドア、補助席(客室)ドア、点検ドアを  
それぞれの位置につけ、動かないようにセロ  
テープで仮り止めます。  
胴体の内側に、それぞれのヒンジを接着し  
て、ドアが開閉できるようにします。



《実機の参考写真》

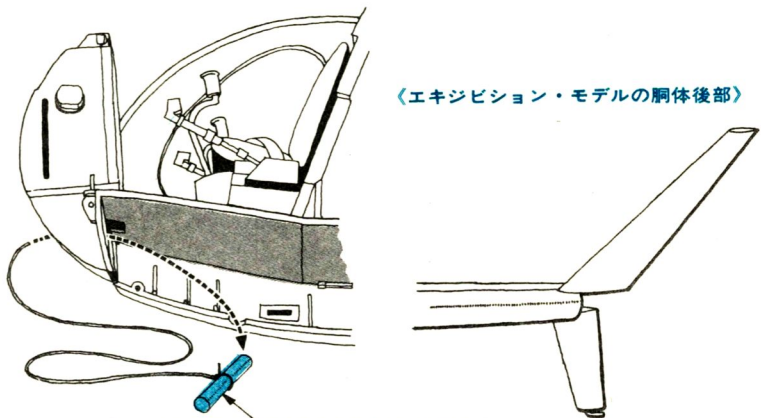


②  
エキジビジョン・モデルのときは、右側胴体  
の最後尾を図のようにカットします。

③  
左右の胴体をはり合わせてからは、麦球(豆電球)のコードが入らなくなるので、糸を通しておきます。通した糸の両はしには、2~3センチの棒をむすび、抜けないようにします。

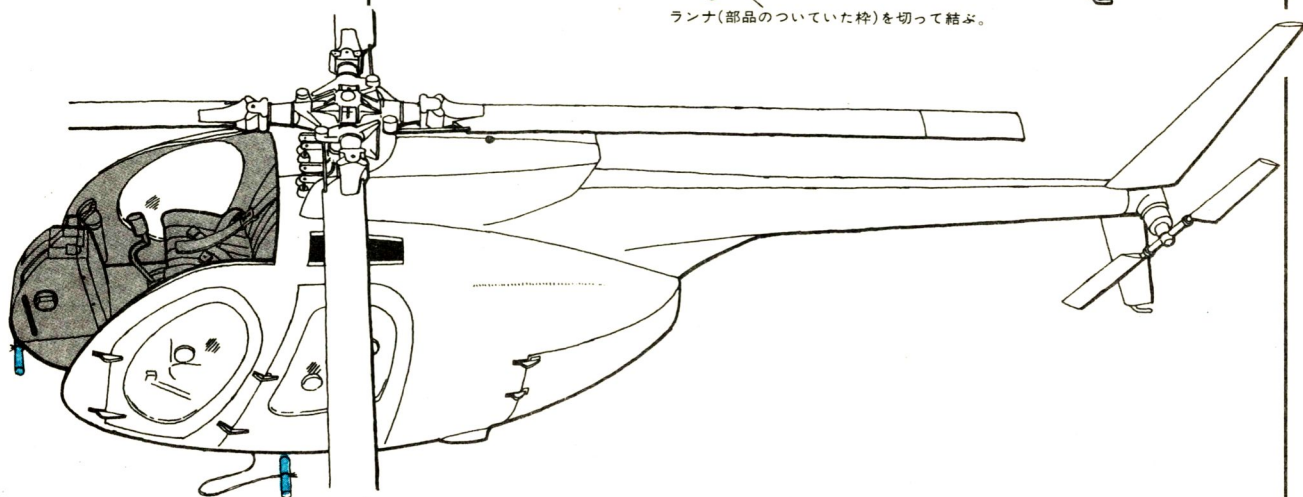
左右の胴体は、すき間ができないように、ぴったりはり合わせます。

③ M



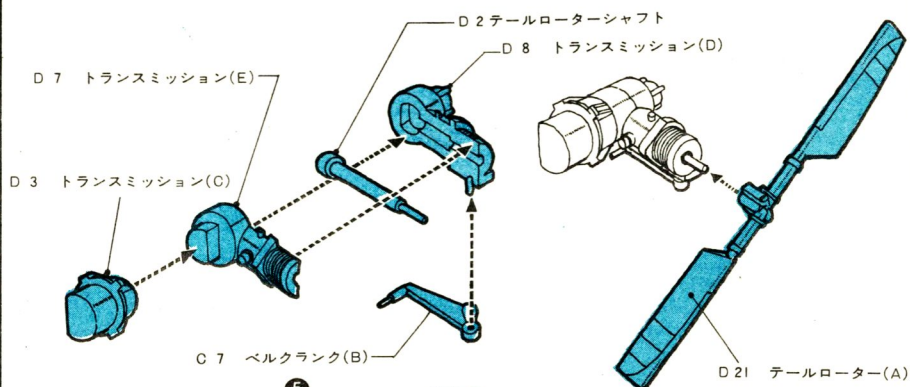
〈エキジビジョン・モデルの胴体後部〉

ランナ(部品のついていた枠)を切って結ぶ。



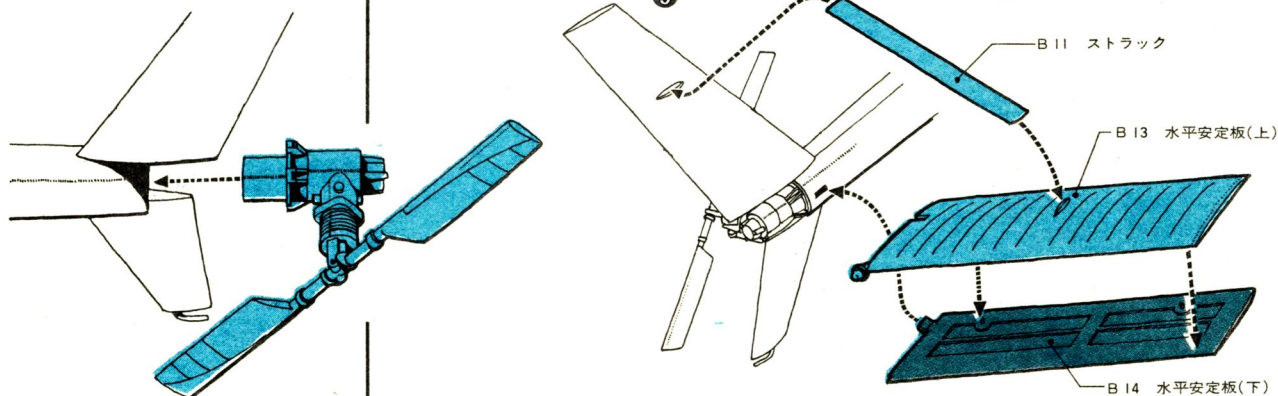
④  
テールローター・シャフトをはさんで、トランスミッションを組立て、テールローターをつけます。  
組み上ったテールローターは、胴体後部にさしこんで接着します。

④



⑤  
水平安定板をはり合わせて胴体に接着し、ストラックで垂直安定板に固定します。

⑤





⑥ 前面ガラスにキャノピー・パネルを接着します。ライトボックスに麦球(豆電球)を入れ、キャノピー・パネルに接着します。麦球のコードの先端を、⑤で通しておいた糸に結びます。外気温度計などの部品をついたら、胴体に接着します。電球のコードは糸を引いて外に引き出します。

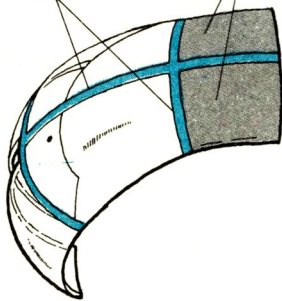
〈塗装メモ〉

—前面ガラスと上部ガラス—

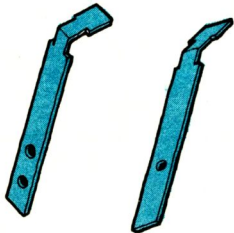
前面ガラスの窓枠は、ケガキ線に合わせて白でぬります。前面ガラスの最上部と、上部ガラスはサンガラスと同じ着色ガラスになっています。クリアオレンジにクリアブルーをまぜて、ダークブラウンのクリアカラーを作り、ガラスの内側からぬります。

クリアオレンジにクリアブルーをまぜてクリアブラウンを作り、ガラスの内側からぬる。

窓枠を白でぬる。



右用脚支柱(穴が2個あいたもの)

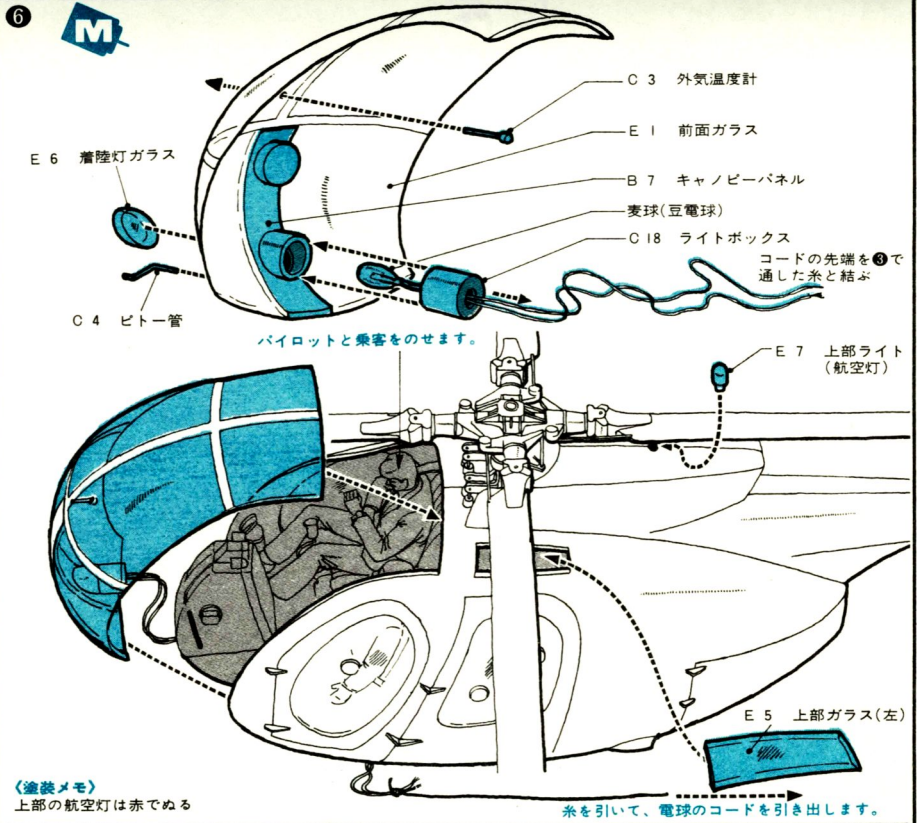
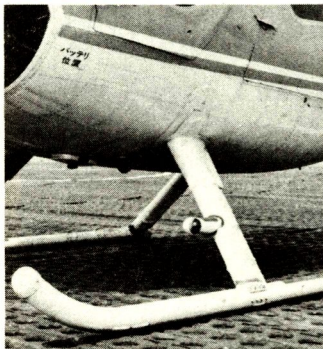


左用脚支柱(穴が1個あいたもの)

⑦ 18ページのデカールの説明に従って、胴体にデカールをはり、よく乾いたら、ドア・ハンドルを付けます。

スキッドは金属の脚支柱をはさんで、右用、左用を組立て、胴体の穴にさしこんで接着します。

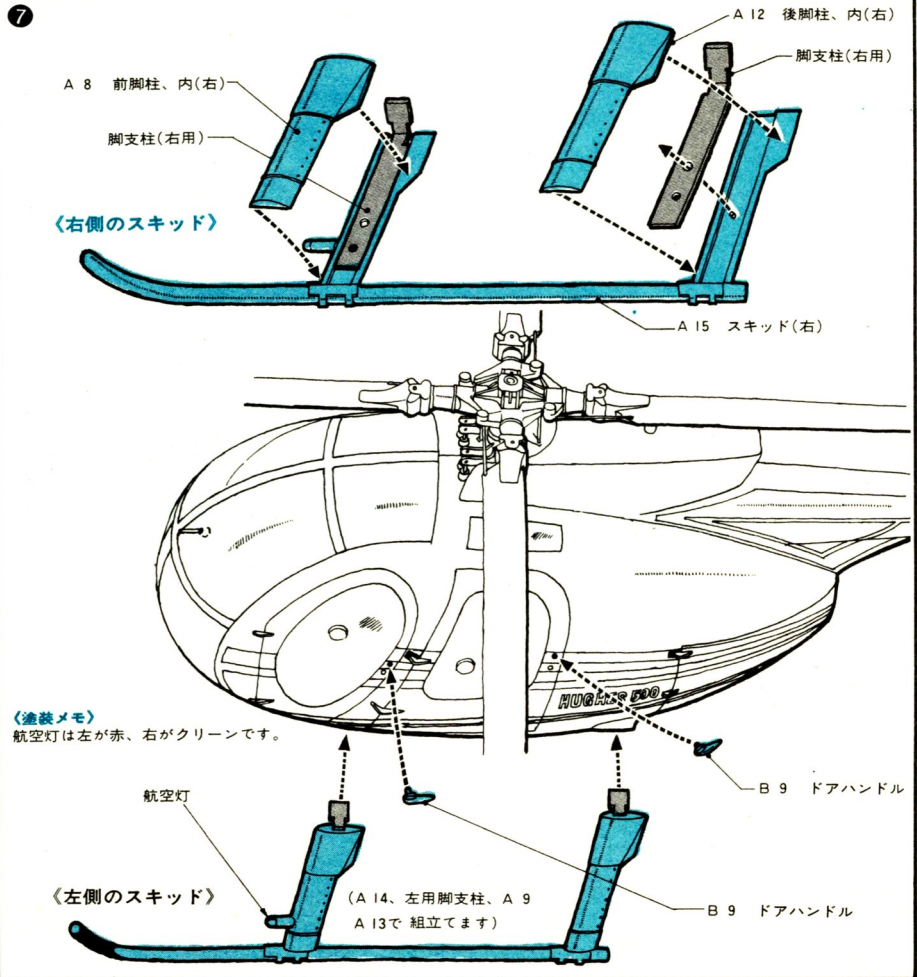
〈実機の参考写真〉



〈塗装メモ〉

上部の航空灯は赤でぬる

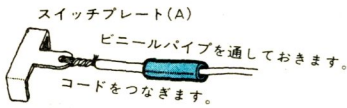
糸を引いて、電球のコードを引き出します。



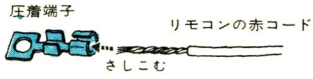
〈塗装メモ〉

航空灯は左が赤、右がクリーンです。

《コードのつなぎかた》



ビニールパイプは三等分して使います。



コードをまきつけます。



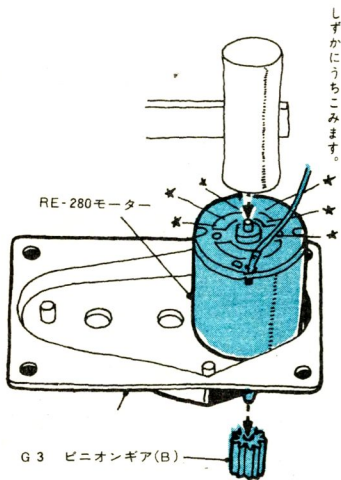
つぶして止めます。



- ⑧  
60cmのリモコン用黄色コードにスイッチプレートAをつなぎます。  
60cmのリモコン用青コードは、8cmに切ったコードと合わせてスイッチプレートAにつなぎます。8cmコードの反対がわにもスイッチプレートAをつけます。  
60cmのリモコン用赤コードには、圧着端子をつけます。

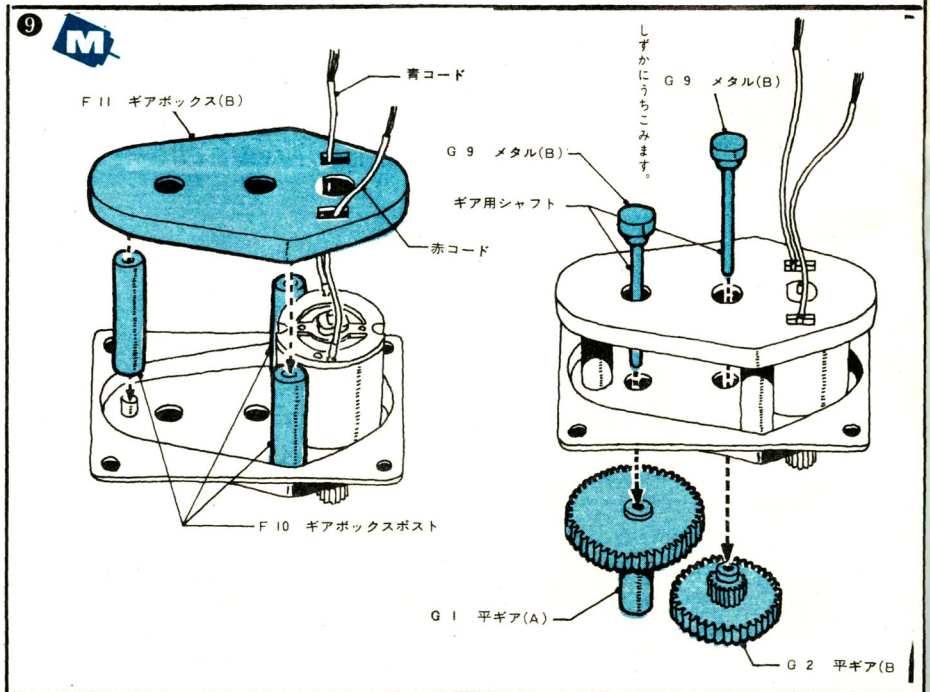
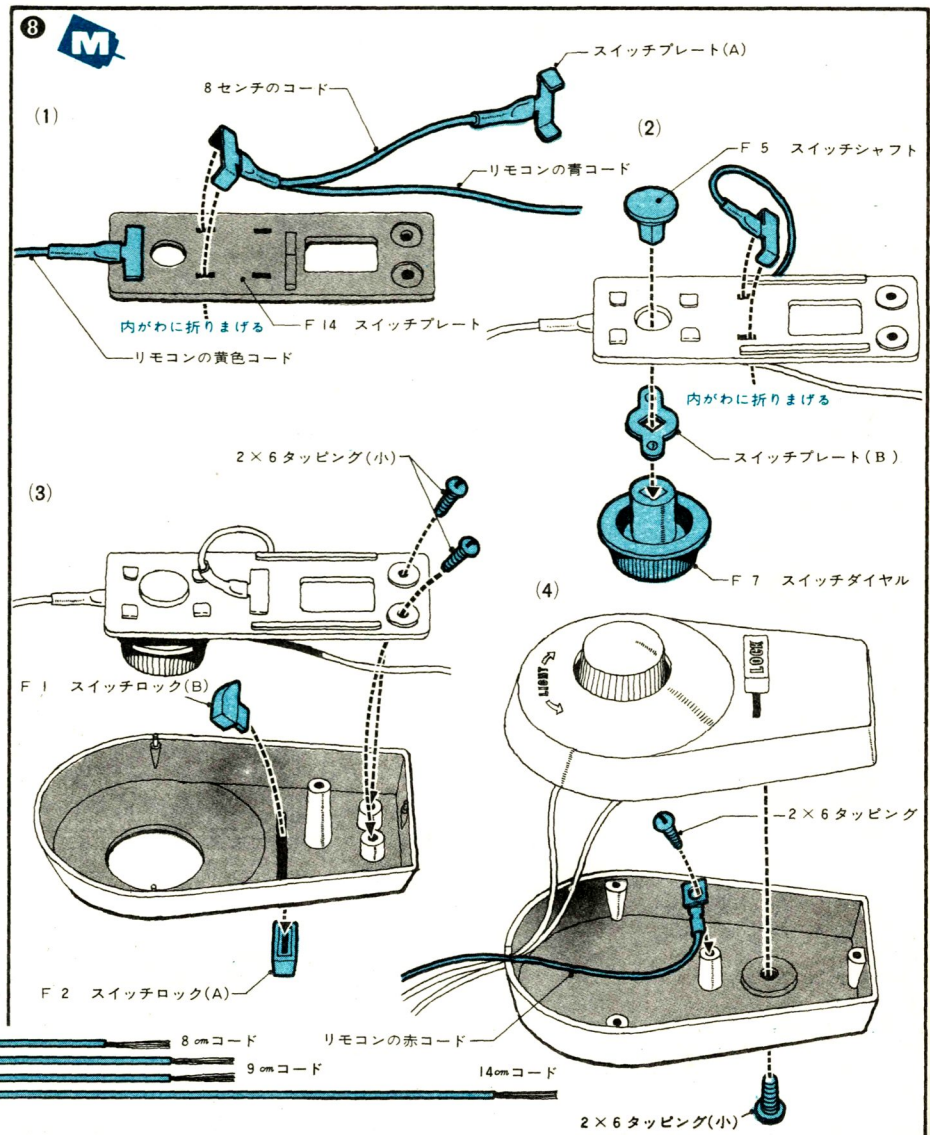
コントロール・ボックスは(1)から(4)の順に組立えます。

《40cmコードの切りかた》



- ⑨  
ギアボックス(A)にRE280モーターをつけ、G3のピニオンギア(B)をシャフトにうちこみ、ギアボックス・ポストを立ててギアボックス(B)を接着します。

金属のギア用シャフトにG9のメタル(B)をつけます。ギア用シャフトは上からさして貫通させ、G1、G2の平ギアに打ちこみます。



⑩ ギアボックスをタッピングネジ(大)で止めつけます。

モーターの青コードは、14cmコード、9cmコードと合わせて、ターミナル・ポストに、ワッシャーとタッピングネジ(大)で止めます。

モーターの赤コードは、リモコンの赤コードとつなぎ、つないだところをセロテープでカバーします。

リモコンの黄色コードは、9cmコードと合わせて、ターミナル・ポストに止めます。

リモコンの青コードは、電池接点金具といっしょに、⊖のポストに止めます。

14cmコードは、電池接点金具といっしょに⊕のポストに止めます。

9cmコードは、穴から外に出しておきます。

スキッド・ホルダーは、タッピングネジ(小)で止めます。

ゴム足は、ゴム足シャフトをつけて、コーナーポストに接着します。

単1乾電池は、記号に合わせて、ホルダーの中に入れます。

⑪ 麦球(豆電球)のコードは、飾台から出したコードとつないで、セロテープでカバーします。

メインローター・ドライブシャフトを、ギアにさしこみます。

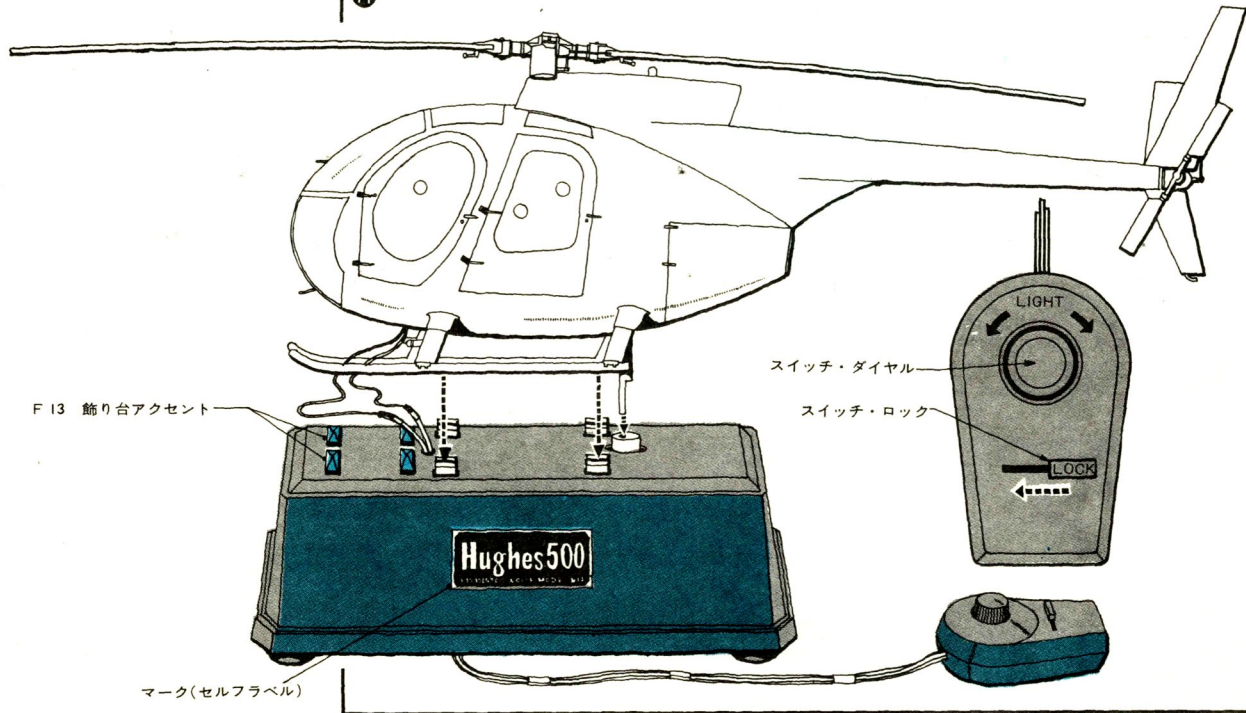
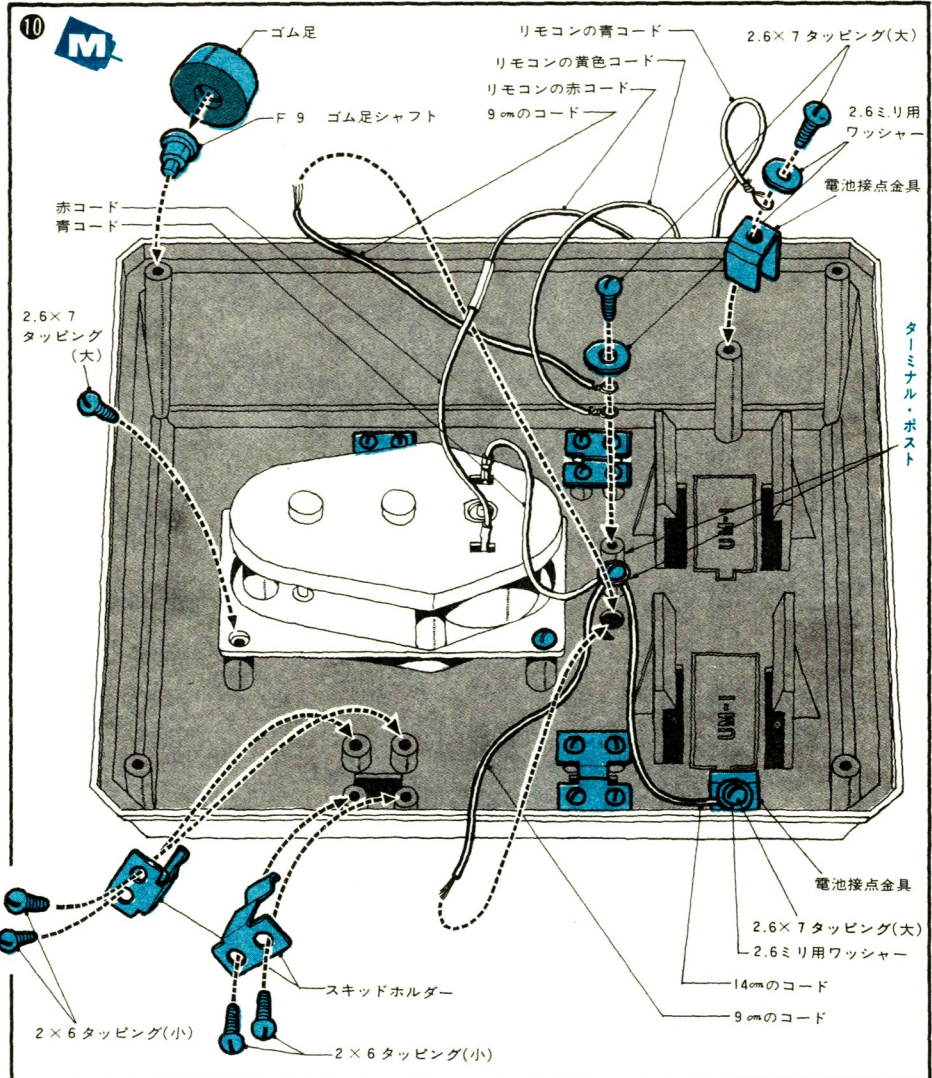
機体は、スキッド・ホルダーに、スキッドをはさんで固定します。

### 〈コントロール・ボックスの操作〉

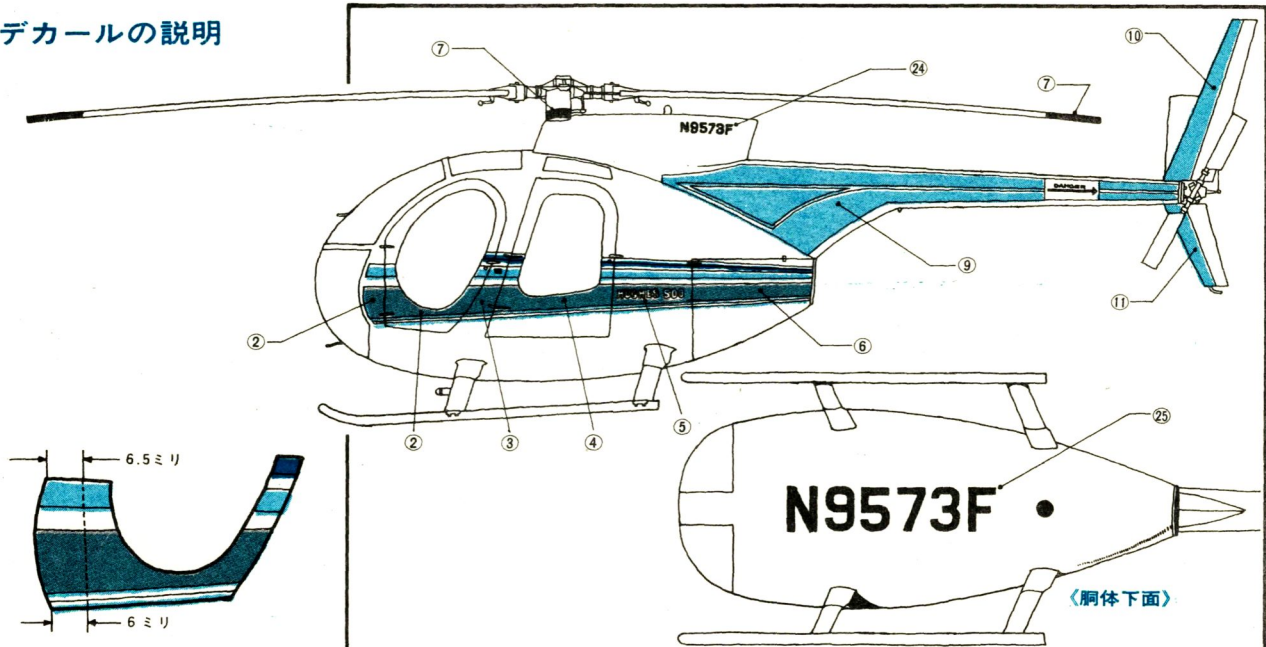
スイッチ・ダイヤルを押すと、ローターが回転します。

スイッチ・ダイヤルを左か右にまわすと、着陸灯がつきます。

スイッチ・ロックを左へずらすと、ローターが連続回転になります。



## デカールの説明



デカール(転写マーク)は、図で示したように番号を合わせて、それぞれの位置にはってください。

②のマークは、上図の寸法で切りはなして使ってください。

胴体の左がわにはるマークは、位置を決めるために、客室ドアの①からはじめます。

全体を塗装仕上げするときのために数種類のマークを用意しました。下の説明に従って使用してください。

②③④⑤のマークは東京警視庁所有機のもです。⑤の警察マークは、正面の着陸灯とベンチレーターの間につけます。

⑥⑦⑧は川崎重工有機のマークです。⑥は正面につけるもので、表三の写真⑦を参考にしてください。

⑨はカイバラ地所所有機のベツトマークです。

⑩⑪は胴体後部につけるもので、カラーガイドを参考にしてください。

⑫は燃料注入口のマークです。表二の写真①でわかるように、胴体右がわの客室ドアのすぐ後につけられます。

⑬はバッテリー位置を示すマークで、胴体左がわの機室ドアのすぐ左下につけられます。表二写真の②をよく見てください。

⑭は登録番号のプレートで、胴体左がわの機室ドアと客室ドアの間につけられます。表三写真の③を見てください。

⑮は胴体上部側面につける登録番号の数字で日本国籍機るときに使用します。

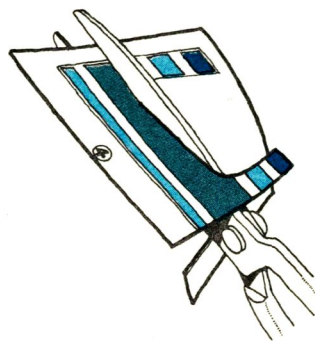
⑯はアメリカ国籍のものにつける数字です。

⑰は胴体下面につける数字で、日本国籍、アメリカ国籍機とも使います。

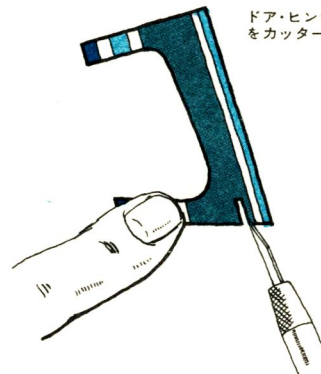
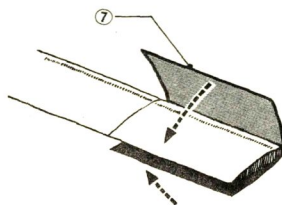
日本で登録されるタービンエンジン付ヘリコプタは9000番台の番号がつけられます。ヒューズヤベル、シュドなどの単発ヘリコプタが90ではじまり、バトルなどの双発ヘリコプタが95ではじまる4ケタの番号がつけられます。なおレシプロエンジンのヘリコプタは7000番台です。

デカールはパターンに合わせて切りぬきます。

ドア・ヒンジなどの凸起物のところをカッターで切りぬきます。



《メイン・ローター先端》

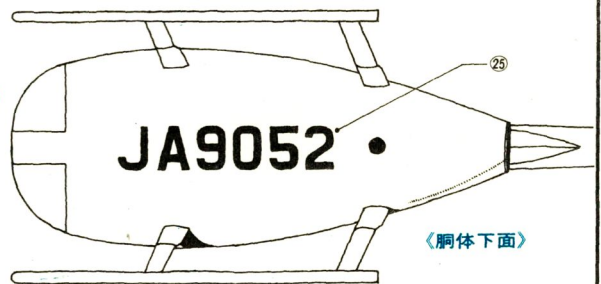
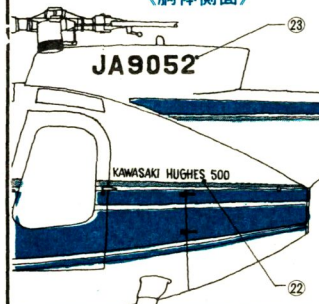


《垂直安定板》

### 《日本国籍機の登録番号》

⑰の文字は川崎重工のもです。

#### 《胴体側面》



《胴体下面》

部品図... 1

① パネルパーツ

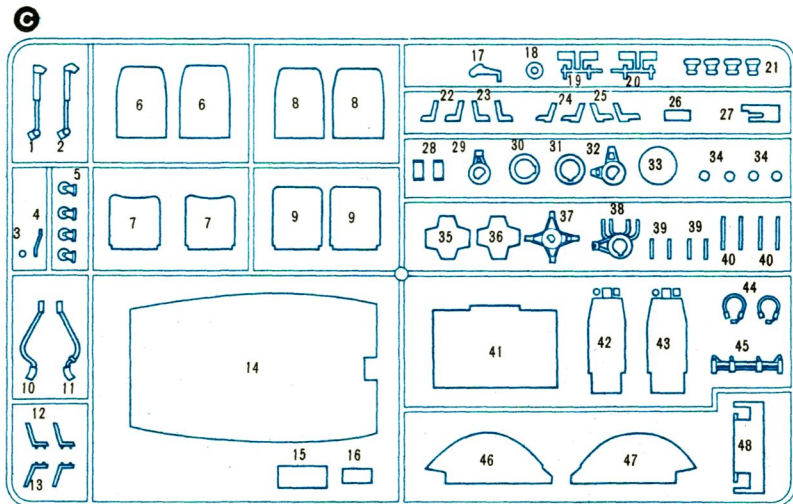
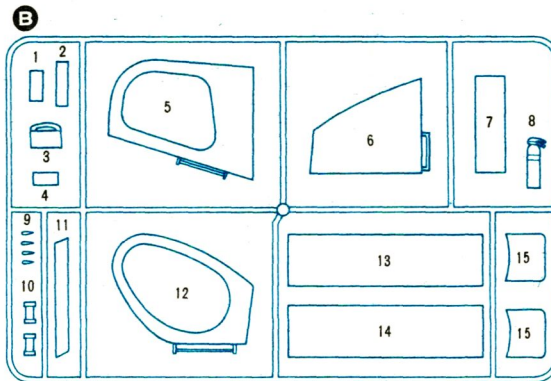
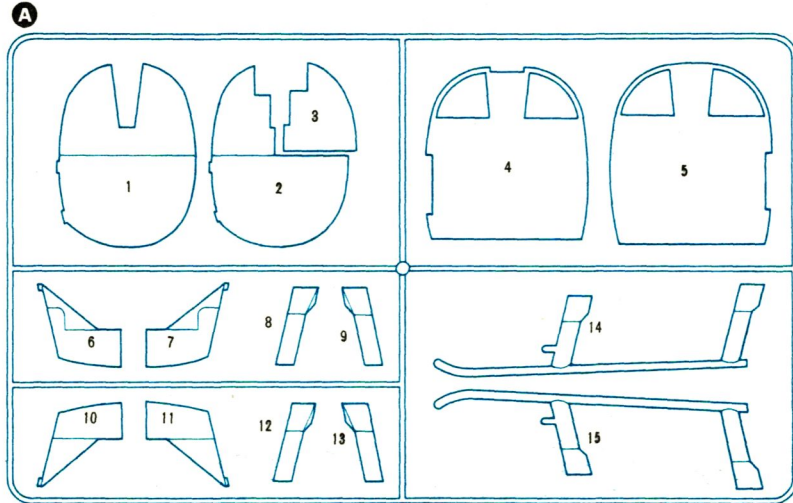
- 1 仕切り壁 (C) ..... 1
- 2 仕切り壁 (D) ..... 1
- 3 仕切り壁 (E) ..... 1
- 4 仕切り壁 (B) ..... 1
- 5 仕切り壁 (A) ..... 1
- 6 トランスミッション・カバー (A) ..... 1
- 7 トランスミッション・カバー (B) ..... 1
- 8 前脚柱内 (右) ..... 1
- 9 前脚柱内 (左) ..... 1
- 10 トランスミッション・カバー (C) ..... 1
- 11 トランスミッション・カバー (D) ..... 1
- 12 後脚柱内 (右) ..... 1
- 13 後脚柱内 (左) ..... 1
- 14 スキッド (左) ..... 1
- 15 スキッド (右) ..... 1

② ドアパーツ

- 1 エンジン点検扉ヒンジ ..... 1
- 2 補助席ドア・ヒンジ ..... 1
- 3 救急箱 ..... 1
- 4 操縦席ドア・ヒンジ ..... 1
- 5 補助席ドア ..... 1
- 6 エンジン点検扉 ..... 1
- 7 キャノピー・パネル ..... 1
- 8 消火器 ..... 1
- 9 ドア・ハンドル ..... 2
- 10 ショルダー・ハーネス ..... 2
- 11 ストラック ..... 1
- 12 操縦席ドア ..... 1
- 13 水平安定板 (上) ..... 1
- 14 水平安定板 (下) ..... 1
- 15 シート・ポケット ..... 2

③ シートパーツ

- 1 操縦桿 (C) ..... 1
- 2 操縦桿 (D) ..... 1
- 3 外気温度計 ..... 1
- 4 ビト一管 ..... 1
- 5 アンクル・ホイールバック ..... 4
- 6 フロント・シート・バック ..... 2
- 6 フロント・シート ..... 2
- 8 リア・シート・バック ..... 2
- 9 リア・シート ..... 2
- 10 操縦桿 (A) ..... 1
- 11 操縦桿 (B) ..... 1
- 12 シート・ベース支柱 (A) ..... 2
- 13 シート・ベース支柱 (B) ..... 2
- 14 コクピット・フロア ..... 1
- 15 操縦桿 (C) カバー ..... 1
- 16 灰皿 ..... 1
- 17 ベル・クラック (B) ..... 1
- 18 ライト・ボックス ..... 1
- 19 フット・ペダル (右) ..... 1
- 20 フット・ペダル (左) ..... 1
- 21 バイブレーション・アブソーバー ..... 4
- 22 リア・シート・ヒンジ (右) ..... 2
- 23 リア・シート・ヒンジ (左) ..... 2
- 24 フロント・シート・ヒンジ (右) ..... 2
- 25 フロント・シート・ヒンジ (左) ..... 2
- 26 コンベニンス・パネル ..... 1
- 27 操縦桿 (D) カバー ..... 1
- 28 ローター・フード ..... 2
- 29 ローター・シノ ..... 1
- 30 ローター・シャフト受リング ..... 1
- 31 ローター・シャフト受け ..... 1
- 32 スワッシュ・プレート ..... 1
- 33 排気管 ..... 1
- 34 ベル・クラック・フード ..... 4
- 35 ハブ・ローア ..... 1
- 36 ハブ・アッパー ..... 1
- 37 スイシ・プレート ..... 1
- 38 ベル・クラック (A) ..... 1
- 39 ミキサー・ロッド ..... 4
- 40 ローター・バンパー・アーム ..... 4
- 41 リア・シート・ベース ..... 1
- 42 計器板 (B) ..... 1
- 43 計器板 (A) ..... 1
- 44 ブーム・マイクロホン ..... 2
- 45 トルク・チューブ ..... 1
- 46 計器板取付け板 (左) ..... 1
- 47 計器板取付け板 (右) ..... 1
- 48 トルク・チューブ・カバー ..... 1



この線から切りはなして使用すると組立てるのに便利です。

① エンジンパーツ

1	アングル (B)	2
2	テール・ローター・シャフト	1
3	トランスミッション (C)	1
4	エア・インレット・リング	1
5	ゼネレーター・スターター (B)	1
6	アングル (A)	1
7	トランスミッション (D)	1
8	トランスミッション (E)	1
9	アングル (C)	2
10	アングル (D)	2
11	ゼネレーター・スターター (A)	1
12	トランスミッション・キャップ	1
13	トランスミッション (A)	1
14	トランスミッション (B)	1
15	エンジン・マウント (A)	1
16	パイプ (A)	1
17	パイプ (B)	1
18	エンジン・マウント (B)	1
19	エンジン・マウント (C)	1
20	テール・ローター (B)	1
21	テール・ローター (A)	1
22	エンジン・パーツ (B)	1
23	エンジン・パーツ (C)	1
24	クラッチ・シリンダー	1
25	エア・インレット・パイプ	2
26	エンジン・マウント (D)	2
27	フット・ステップ	4
28	エア・インレット・ベル	1
29	パッキング	1
30	排気管 (B)	1
31	排気管 (B)	1
32	排気管 (C)	1
33	排気管 (C)	1
34	排気管セパレーター	1
35	ガスケット	1
36	エンジン・ユニット	1
37	カップリング	1
38	エンジン・パーツ (D)	1
39	エア インレット・ドラム	1
40	エア インレット・ドラム	1
41	排気管 (D)	1
42	排気管 (D)	1
43	排気管 (E)	1
44	排気管 (E)	1
45	ベルト・バックル (B)	4
46	ベルト・バックル (A)	4
47	ベルト・バックル (C)	4
48	サポート・プレート	1
49	エンジン (B)	1
50	エンジン (A)	1
51	ファイアー・ウォール	1
52	エンジン・エア・インレット	1
53	排気管 (A)	1
54	排気管 (A)	1
55	エンジン・パーツ (A)	1
56	メイン・ローター	4

② ガラスパーツ

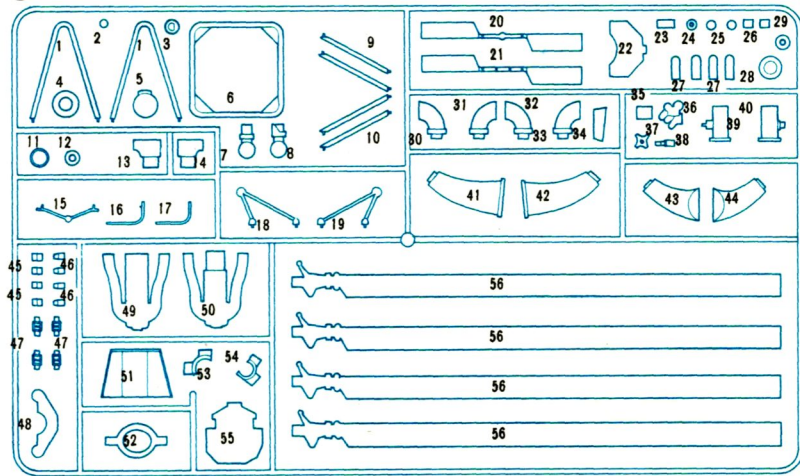
1	前面ガラス	1
2	操縦席ドア・ガラス (右)	1
3	操縦席ドア・ガラス (左)	1
4	上部ガラス (右)	1
5	上部ガラス (左)	1
6	覆陸灯ガラス	1
7	上部ライト	1
8	補助席ドア・ガラス (左)	1
9	補助席ドア・ガラス (右)	1

③ リモコンパーツ

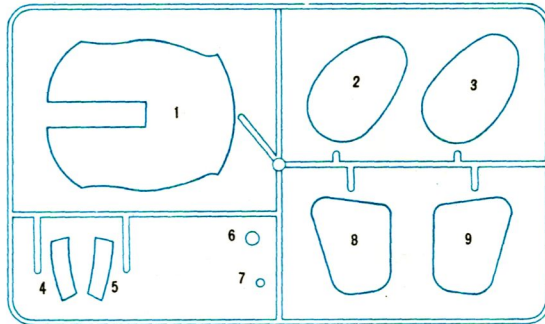
1	スイッチ・ロック (B)	1
2	スイッチ・ロック (A)	1
3	シャフト・メタル (A)	1
4	シャフト・メタル (B)	1
5	スイッチ・シャフト	1
6	ギア・ホルダー・フラケット	1
7	スイッチ・ダイヤル	1
8	リモコン・ボックス (B)	1
9	ゴム足シャフト	4
10	ギア・ボックス・ポスト	3

11	ギア・ボックス (B)	1
12	ギア・ホルダー (B)	1
13	飾り台アクセント	4
14	スイッチ・プレート	1
15	リモコン・ボックス (A)	1
16	メインローター・シャフト	1
17	ギア・ボックス (A)	1
18	ギア・ホルダー (A)	1

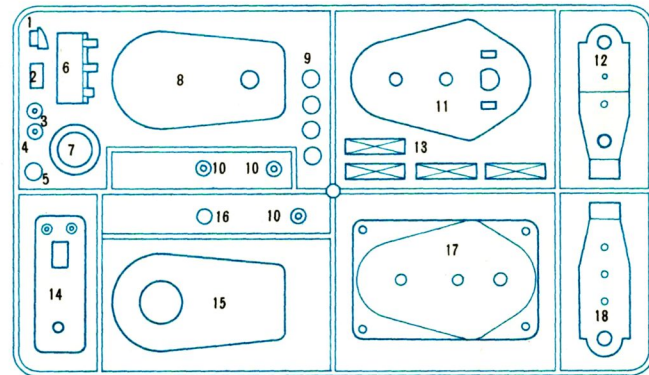
④



⑤



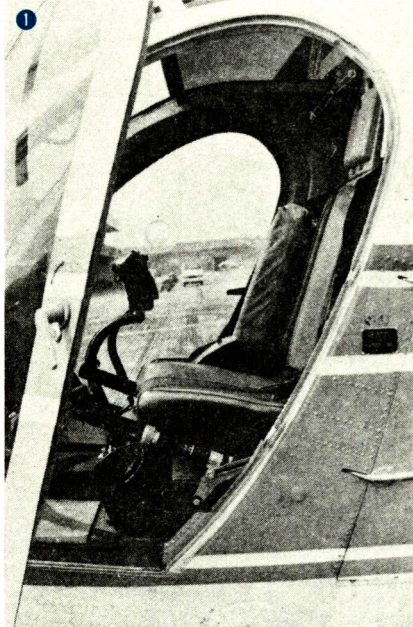
⑥



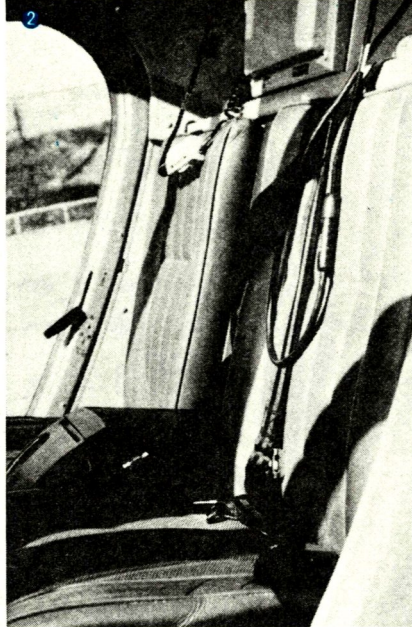
金属その他の部品

1	脚支柱 (右)	2
2	脚支柱 (左)	2
3	スキッド・ホルダー	8
4	テールローター・シャフト (A)	1
5	テールローター・シャフト (B)	1
6	メインローター・メタルシャフト	1
7	テールローター・ドライブシャフト	1
8	メインローター・ドライブシャフト	1
9	ギア用シャフト	2
10	スプリング・ジョイント	1
11	変球	1
12	スイッチ・プレート (A)	3
13	スイッチ・プレート (B)	2
14	電池接点金具	2
15	圧着端子	1
16	ゴム足	4
17	軽厚マーク・リング	1
18	2.6×7 タッピング	8
19	2×6 タッピング	20
20	60cm リモコン用コード (赤・青・黄)	3
21	40cm 赤コード	1
22	2.6ミリ用ワッシャー	4
23	ゴム・ジョイント	1
24	40cm 黒コード	1
25	ビニール・パイプ	1
26	銀シール	1
27	三角袋	1
28	アドハチック	1

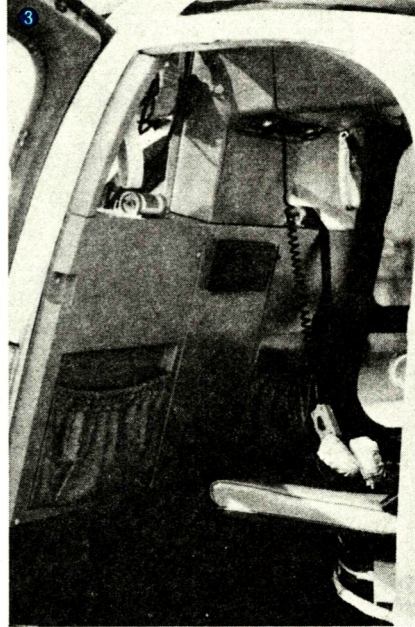
操縦席の写真です。シートの横についている棒状のものがコントロール・ステック。シートの前のものがサイクリック・コントロール・ステックです。



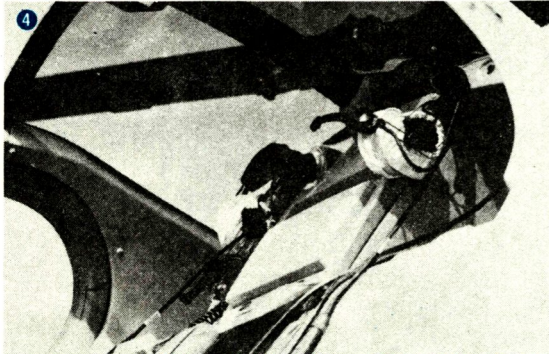
操縦席の写真です。シートとシートの間にある箱状のものはコントロール・ステック・カバーで、天井から下っているのはマイクロホンのコードです。



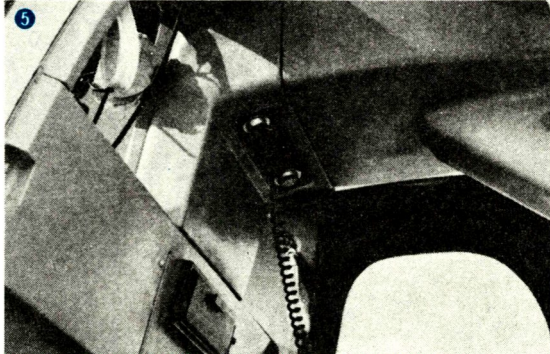
客室(後部座席)の写真です。中央部の黒い箱はタバコの灰皿で、シートの上に置いてあるのはハンデスト・ブーム・マイクロフォンです。



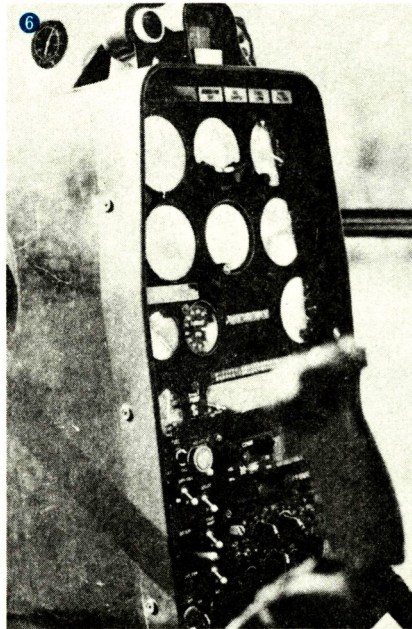
操縦席後部の天井を見た写真です。背当ての上にかけてあるのはハンデスト・ブーム・マイクロフォンで、ガラス越しにメインローターがのぞいています。



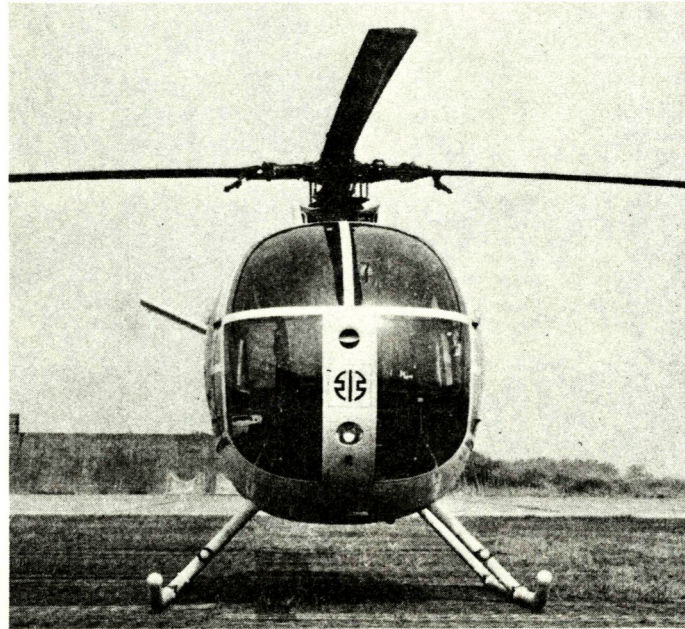
客室の天井を見た写真です。中央にあるコンベンス・パネルにはマイクロフォン・ジャックがさしこまれます。その後部はトランスミッション・カバーです。



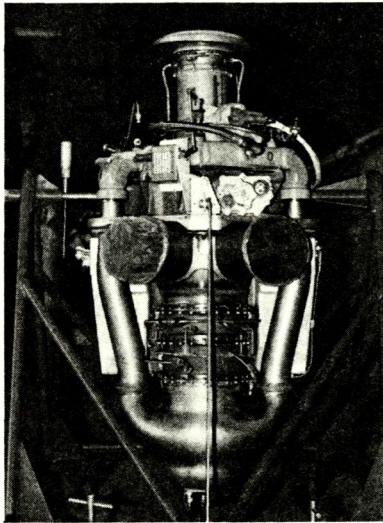
キャビン前部中央にある計器板の写真です。手前にボケて写っているのが、サイクリック・コントロール・ステックのグリップです。



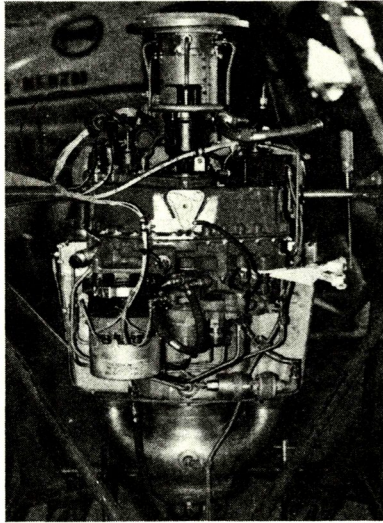
正面から見た写真です。機体中央のマークの下にあるのが着陸灯、その下にあるのがビトー管です。着陸ソリ支柱の中間に丸く見えるのが航空灯で、右(向って左)が緑灯、左が赤灯です。機体の向って左の斜めに出ているのが水平安定板です。



キャビン内部説明写真



エンジンを上から見た写真で、排気管をはずした状態(×印のビニールカバーをつけた部分)です。



エンジンを下から見たもので、上部が吸気口です。電気コード類の配線状態がよくわかります。

### 要目表

エンジン	アリソン式250-C18A×1	出力317shp
主回転翼	全関節式4枚羽根×1	
全幅	8.03メートル	
全長	9.42メートル	
全高	2.50メートル	
胴体全幅	2.58メートル	
胴体全長	7.01メートル	
ホイール・トラック	2.07メートル	
主回転翼円板面積	50.60平方メートル	
尾回転翼円板面積	1.32平方メートル	
主回転翼面積	0.69平方メートル	
尾回転翼面積	0.079平方メートル	
燃料容量	186.9キログラム	
滑油容量	2.7キログラム	
着陸装置	スキッド式	

最大速度	時速 245キロメートル
巡航速度	時速 222キロメートル
実用上昇限度	4,389メートル
航続距離	607キロメートル
最大重量	1,157キログラム
自重	493キログラム
積載量	602キログラム
乗組員	1名
旅客	3名
貨物積載量	454キログラム
燃料積載量	181キログラム
滑油積載量	2.7キログラム

